

男女共同参画社会に関する意識調査  
報告書（概要版）

平成28年2月

那須塩原市

## 目 次

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1.	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年代	2
(3)	結婚の状況	2
(4)	働き方	3
(5)	世帯構成	3
(6)	乳幼児・高齢者との同居	4
(7)	職業	4
2.	男女平等について	5
(1)	男女の地位の平等観	5
(2)	職場における男女平等	9
(3)	男は仕事、女は家庭という考え方	10
3.	結婚・家庭生活・子育て介護について	11
(1)	結婚・家庭・離婚についての考え	11
(2)	夫婦の役割分担	12
(3)	夫婦の役割分担の満足度	13
(4)	自分の子どもの育て方	13
(5)	父親の育児参加に対する考え	14
(6)	男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え	14
4.	女性と仕事について	15
(1)	女性が仕事を持つことについての考え	15
(1-1)	女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと	16
(1-2)	結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと	17
5.	男女の地域・社会参画について	18
(1)	地域・社会活動への参加状況	18
(1-1)	地域・社会活動に参加していない理由	19

6. 男女共同参画の視点からの防災について	20
(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応	20
7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	21
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度	21
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想	21
(3) 男女が仕事、家庭、地域生活を両立するために必要なこと	22
8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて	23
(1) 配偶者・パートナー間の暴力	23
(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先	24
(2-1) 暴力について相談しなかった理由	24
(3) セクシャル・ハラスメントと感ずること	25
9. 男女共同参画を推進するための取組について	27
(1) 市が力を入れるべき取組	27
(2) 企業や職場での必要な取組	28
(3) 私たち自身が必要な取組	29
(4) 市の施策の認知度	30
(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度	31

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成24年に策定した「第2次那須塩原市男女共同参画行動計画」の評価目標値のうち、市民意識に関する項目について、基準年次（平成22年）、中間調査（平成25年）からの意識変化の状況を把握し、次期行動計画の策定及び、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

## 2. 調査項目

- (1) 属性（性別、年代、結婚の状況、働き方、世帯構成、乳幼児・高齢者との同居、職業）
- (2) 男女平等について
- (3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (4) 女性と仕事について
- (5) 男女の地域・社会参画について
- (6) 男女共同参画の視点からの防災について
- (7) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (8) パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて
- (9) 男女共同参画社会づくりのための取組について

## 3. 調査設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳に基づき性別・年代別・地区別無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収（礼状兼督促状1回送付）
- (6) 調査期間 平成27年10月15日（木）～10月31日（土）

## 4. 回収結果

性別	配布数	回収数	回収率
男性	1,000	331	33.1%
女性	1,000	464	46.4%
不明		60	
合計	2,000	855	42.8%

## 5. 報告書の見方

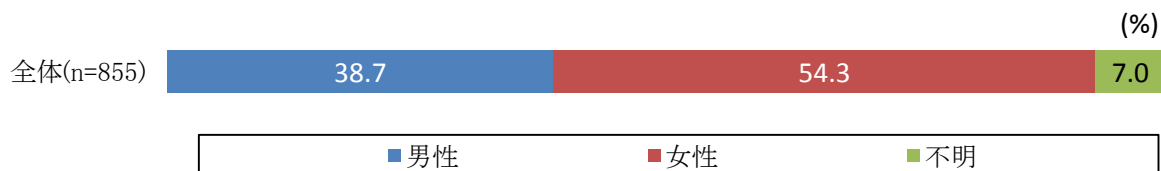
集計結果で示す数値は、百分率（%）で表示しました。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合があります。

## II 調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別

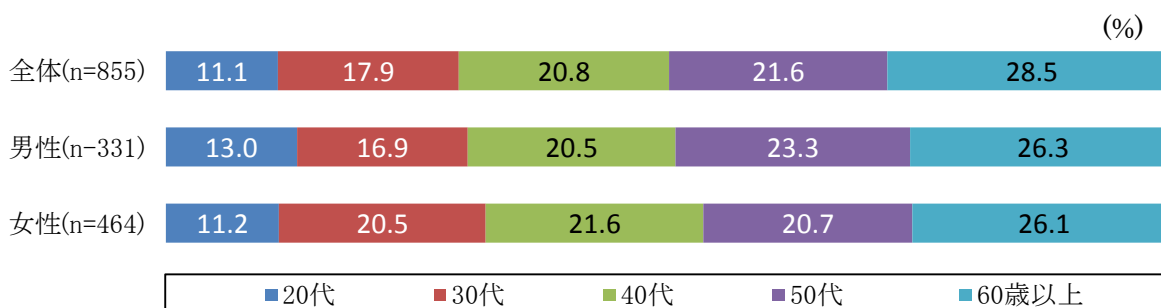
性別は、「男性」は38.7%、「女性」が54.3%となっている。



#### (2) 年代

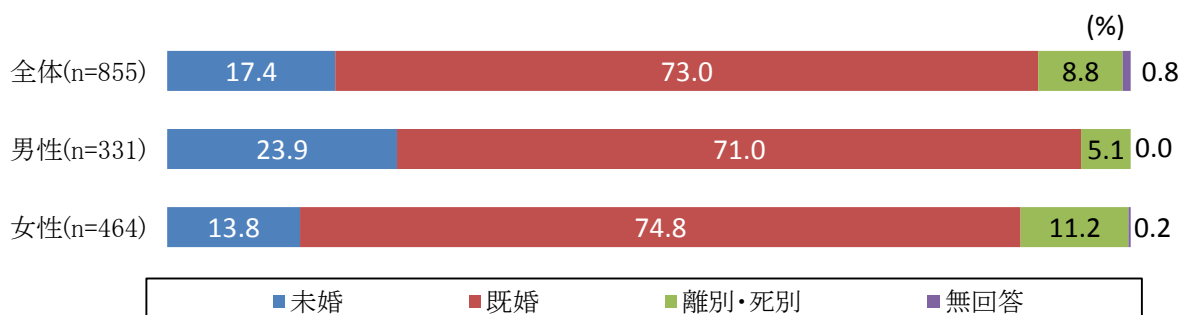
年齢は、「20代」が11.1%、「30代」が17.9%、「40代」が20.8%、「50代」が21.6%、「60歳以上」が28.5%となっている。

調査対象者は、各年代200名ずつ抽出しており、年代別の回答率は、高い年代ほど高い傾向となっている。



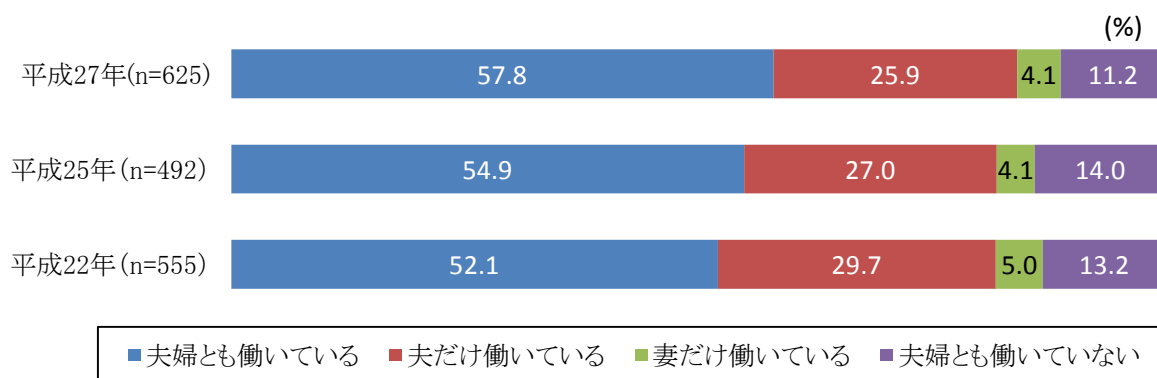
#### (3) 結婚の状況

結婚の状況は、「既婚」の割合が73.0%と最も高く、次いで「未婚」(17.4%)、「離別・死別」(8.8%)の順となっている。



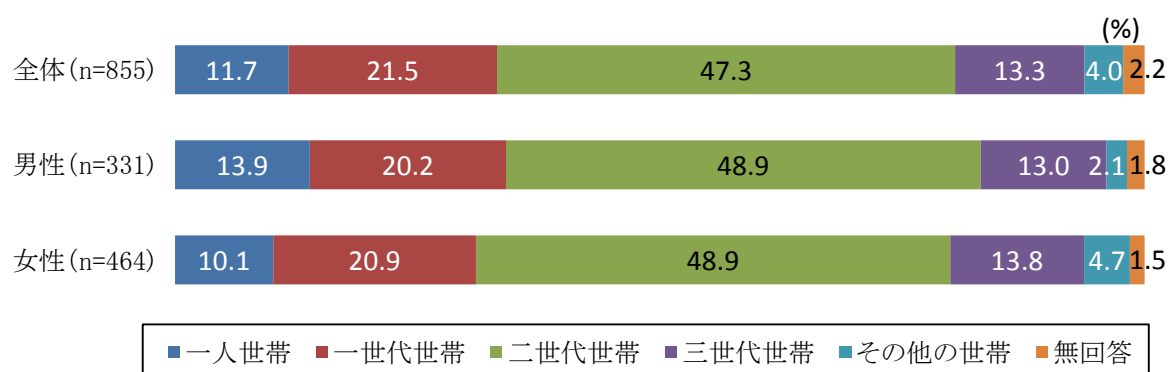
#### (4) 働き方

共働きの状況は、「夫婦とも働いている」が57.8%で最も高く、経年比較をみても夫婦の共働きの増加している。



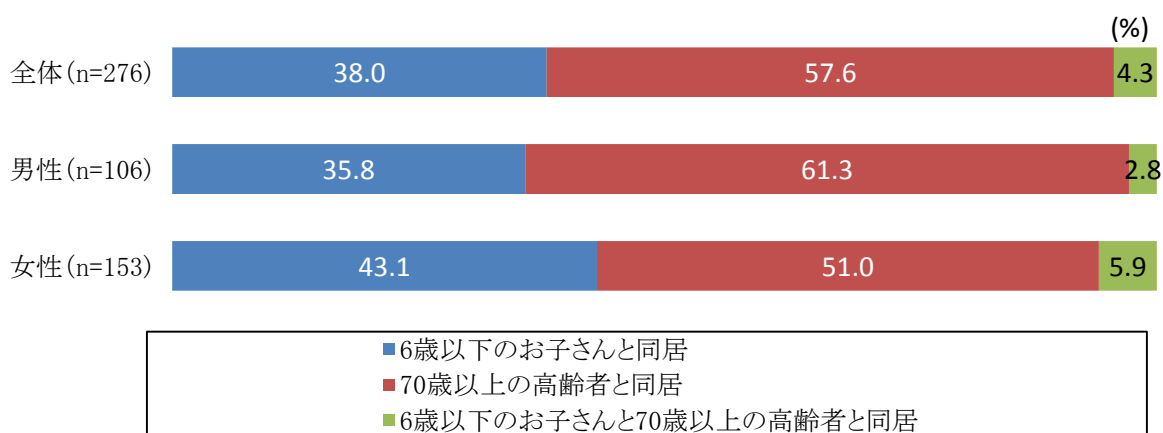
#### (5) 世帯構成

世帯構成は、全体で「二世帯世帯（親と子）」が47.3%で最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が21.5%、次いで男性は「一人世帯」が13.9%、女性は「三世帯世帯（親と子と孫）」が13.8%とそれぞれ続いている。



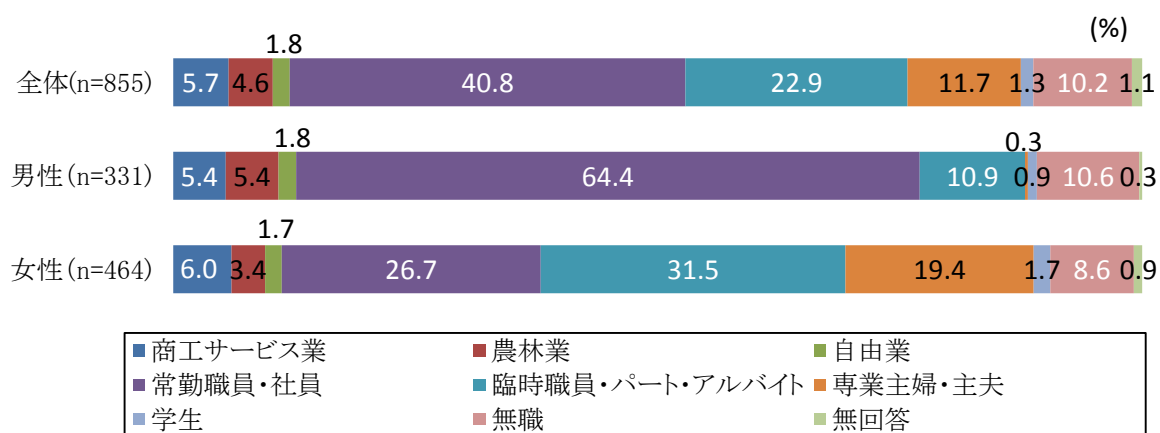
## (6) 乳幼児・高齢者との同居

一人世帯以外の世帯で、乳幼児や高齢者との同居の状況は、「70歳以上の高齢者と同居」が57.6%、「6歳以下のお子さんと同居」が38.0%、「6歳以下のお子さんと70歳以上の高齢者と同居」が4.3%となっている。



## (7) 職業

男性の職業は、「常勤職員・社員」が64.4%と6割を超えており、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が10.9%と続いている。一方、女性の職業は「臨時職員・パート・アルバイト」が31.5%と最も高く、次いで「常勤職員・社員」が26.7%、「専業主婦」が19.4%と続いている。



## 2. 男女平等について

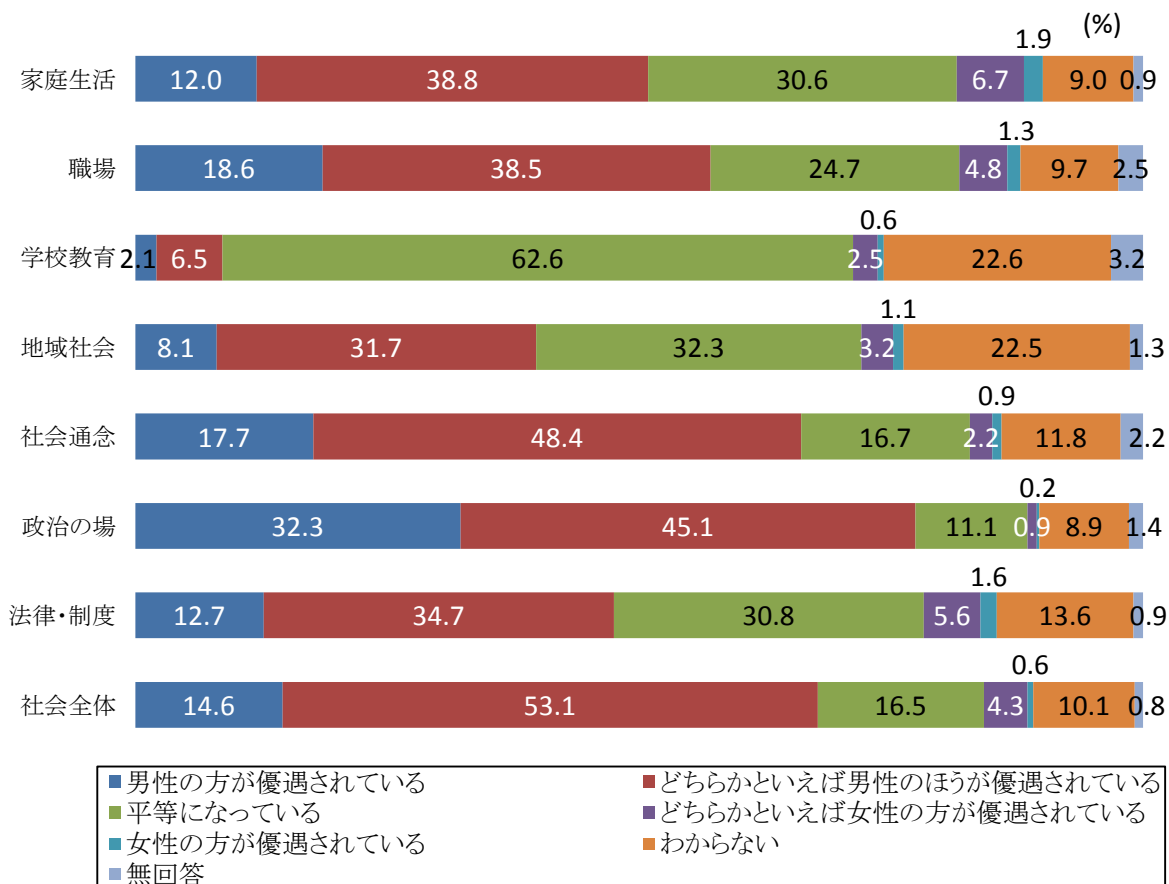
### (1) 男女の地位の平等観

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

#### 【全体】

「学校教育」を除く全ての項目で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高くなっており、「政治の場」の項目は7割以上、「社会通念・慣習・しきたり」、「社会全体」の項目でも6割以上の回答となっている。

また、「平等になっている」では、「家庭生活」、「地域社会」、「法律・制度」の項目で3割を超えている。



#### 【第2次行動計画の評価目標】

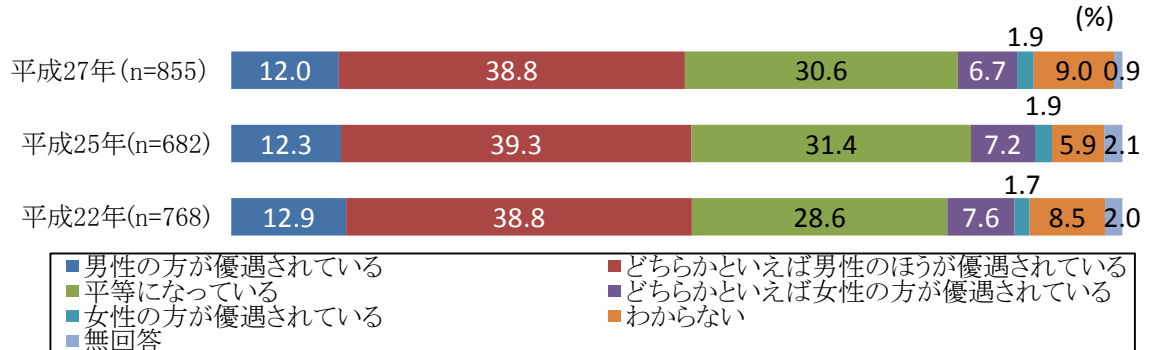
項目	基準値 H22	H25	(現状) H27	目標年度 H28
「学校教育」で男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅰ）	65.0%	64.5%	62.6%	70.0%
「社会全体」で男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅱ）	18.0%	16.1%	16.5%	23.0%
「家庭生活」で男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅳ）	28.6%	31.4%	30.6%	48.0%
「職場」で男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅳ）	20.3%	22.9%	24.7%	23.0%



## ① 家庭生活

### 【全体】

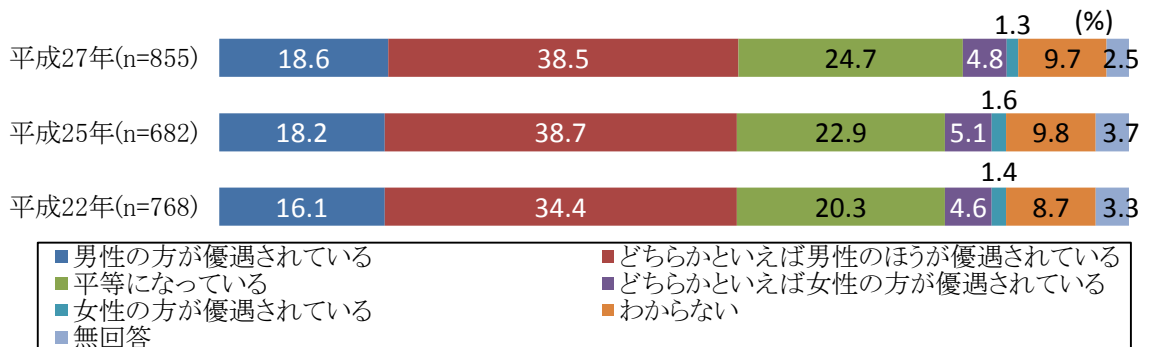
家庭生活において「平等」と感じている人の割合は、30.6%と前回調査（平成25年調査を言う。以下同じ）から0.8ポイント減少、平成22年調査からは2.0ポイント増加しているが、依然として「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含め「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合（以下『男性が優遇（計）』という）は、50.8%で半数となっている。



## ② 職場

### 【全体】

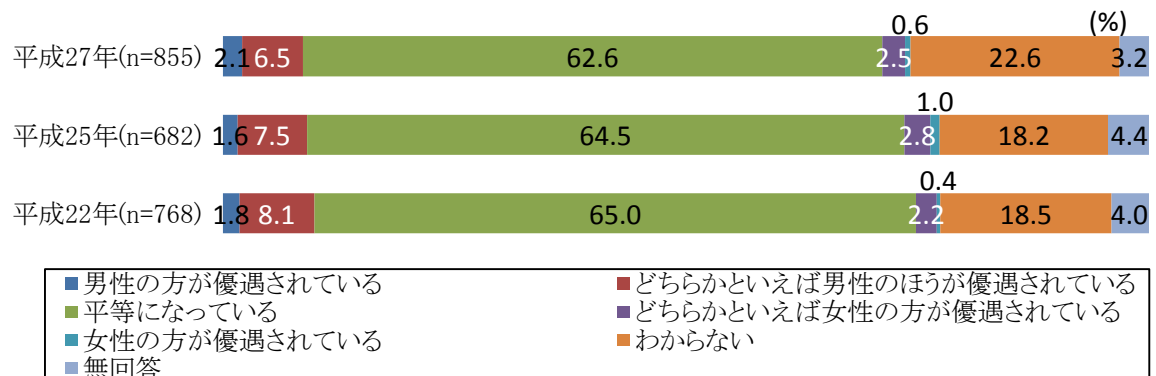
職場において『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、57.1%と前回調査とほぼ変わらない結果となっているが、「平等」と感じている人の割合は徐々に増加している。



## ③ 学校教育

### 【全体】

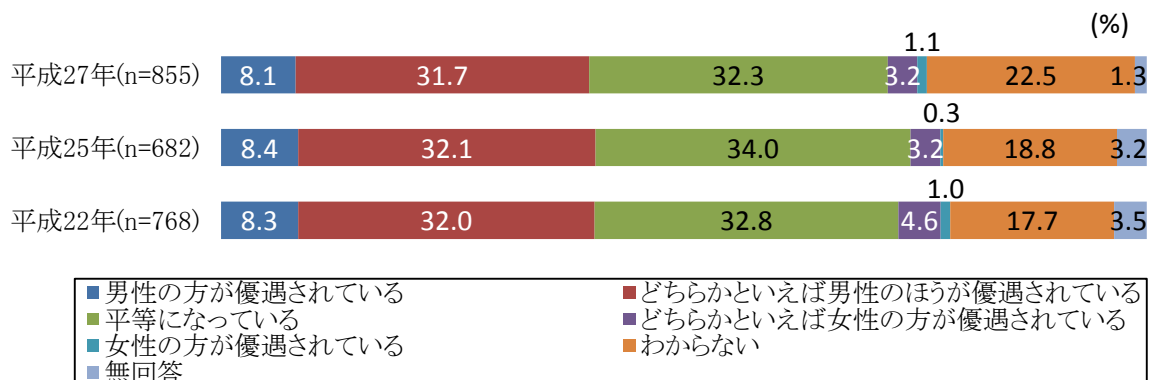
学校教育において「平等」と感じている人の割合は、62.6%と前回調査に比べ1.9ポイント低く、平成22年調査以降減少傾向にある。



#### ④ 町内会や自治会などの地域社会

##### 【全体】

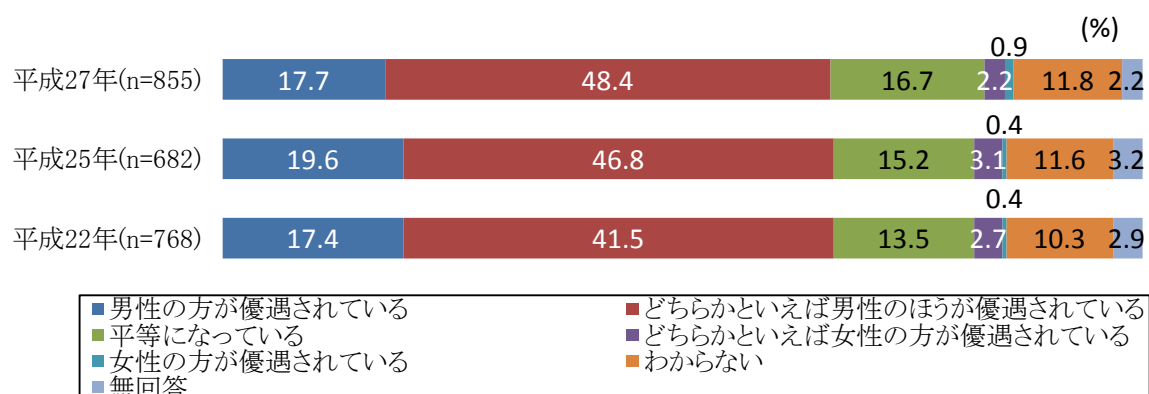
地域社会において、「平等」と感じている人の割合は32.3%、これに対し、『男性が優遇（計）』は39.8%と上回っている。経年比較をみると、ほぼ同じ割合となっている。



#### ⑤ 社会通念・慣習・しきたり

##### 【全体】

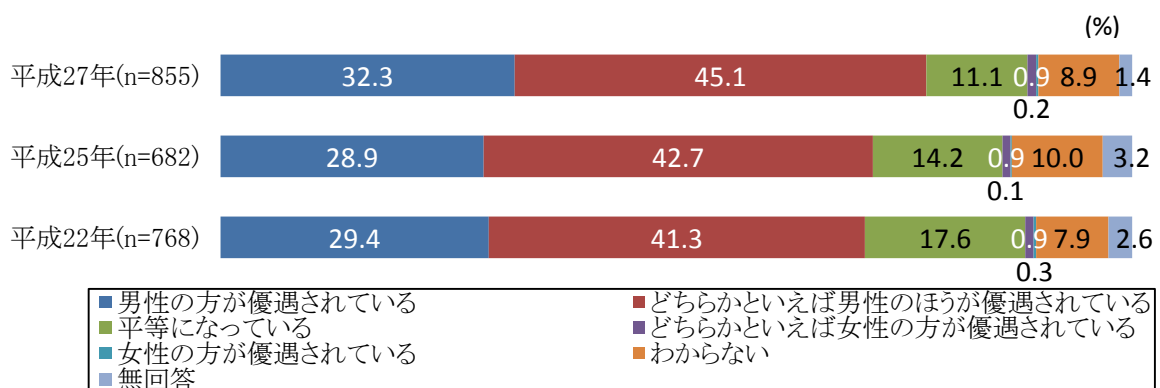
社会通念・慣習・しきたりにおいて「平等」と感じている人の割合は、16.7%で平成22年度調査に比べて3.2ポイント増加している。また、『男性が優遇（計）』は、66.1%と平成22年調査から7.2ポイント減少している。



#### ⑥ 政治の場

##### 【全体】

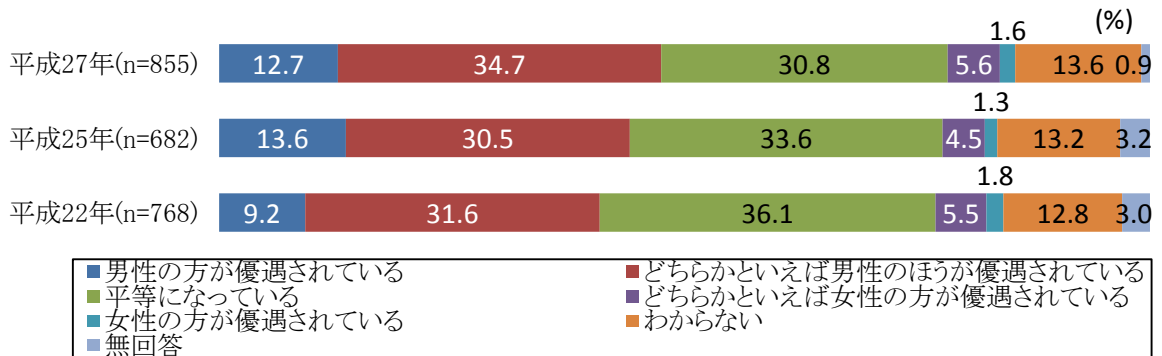
政治の場において「平等」と感じている人の割合は、11.1%と前回調査に比べ3.1ポイント減少している。一方で「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は、前回調査から3.4ポイント増加している。



## ⑦ 法律や制度の上

### 【全体】

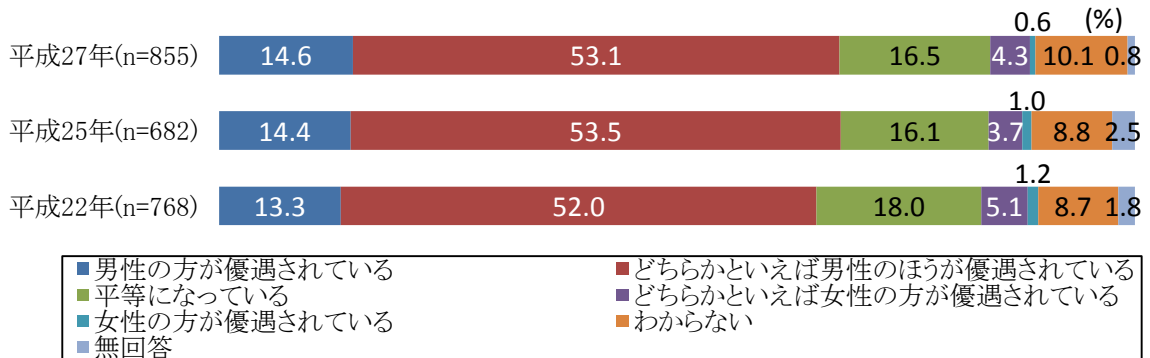
法律や制度において「平等」と感じている人の割合は、30.8%と前回調査からから2.8ポイント減少している。これに対し、『男性が優遇（計）』は、47.4%と前回調査に比べて3.3ポイント増加している。



## ⑧ 社会全体

### 【全体】

社会全体において「平等」と感じている人の割合は、前回調査に比べ0.4ポイント増加しているが、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、67.7%と依然として高い割合で推移している。



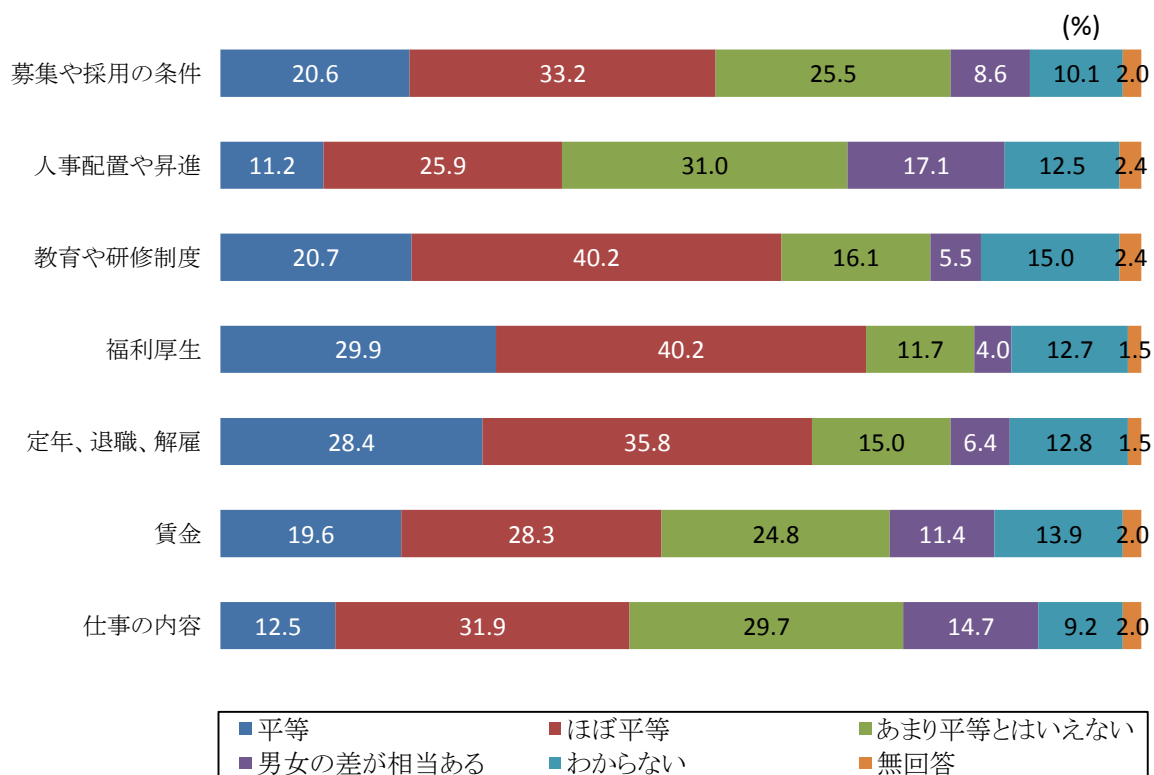
## (2) 職場における男女平等

【問2】 あなたの職場では、どの程度男女平等になっていると思いますか。

【全体】

職場での男女平等について「平等」、「ほぼ平等」と感じている人の割合は、「人事配置や昇進」「賃金」、「仕事の内容」以外の項目で5割を超えている。

一方、「あまり平等とはいえない」と「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合の最も高い項目は、「人事配置や昇進」の48.1%で、次いで「仕事の内容」の44.4%、「賃金」の36.2%となっている。



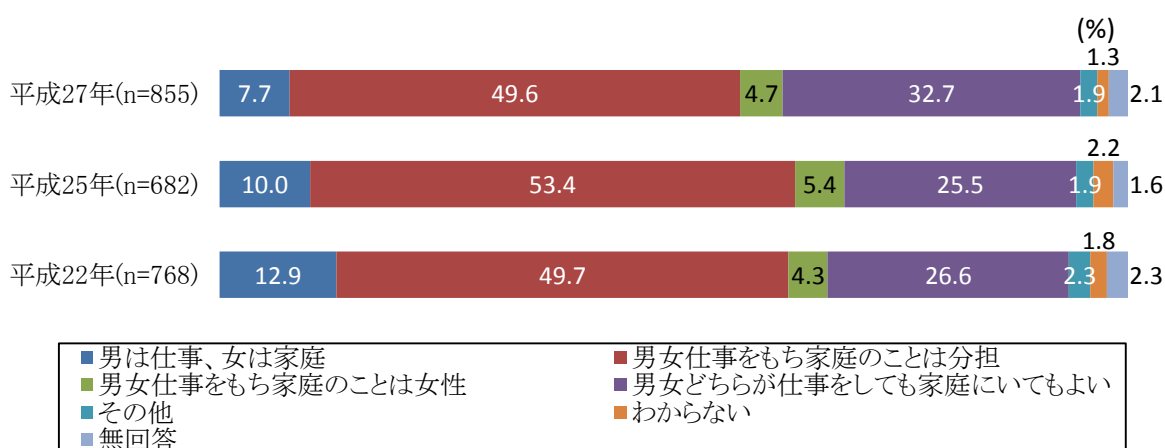
### (3) 男は仕事、女は家庭という考え方

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「男女とも仕事をもち家庭のことは分担」が49.6%で最も高く、次いで、「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」が32.7%、「男は仕事、女は家庭」が7.7%、「男女仕事をもち家庭のことは女性」が4.7%などの順となっている。

「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は減少している。一方で「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」と考える人が増加している。



#### 【第2次行動計画の評価目標】

項目	基準値 H22	H25	(現状) H27	目標年度 H28
「男は仕事、女は家庭」といった性別による役割を固定する考え方を持つ人の割合（基本目標Ⅰ）	12.9%	10.0%	7.7%	8.0%

### 3. 結婚・家庭生活・子育て介護について

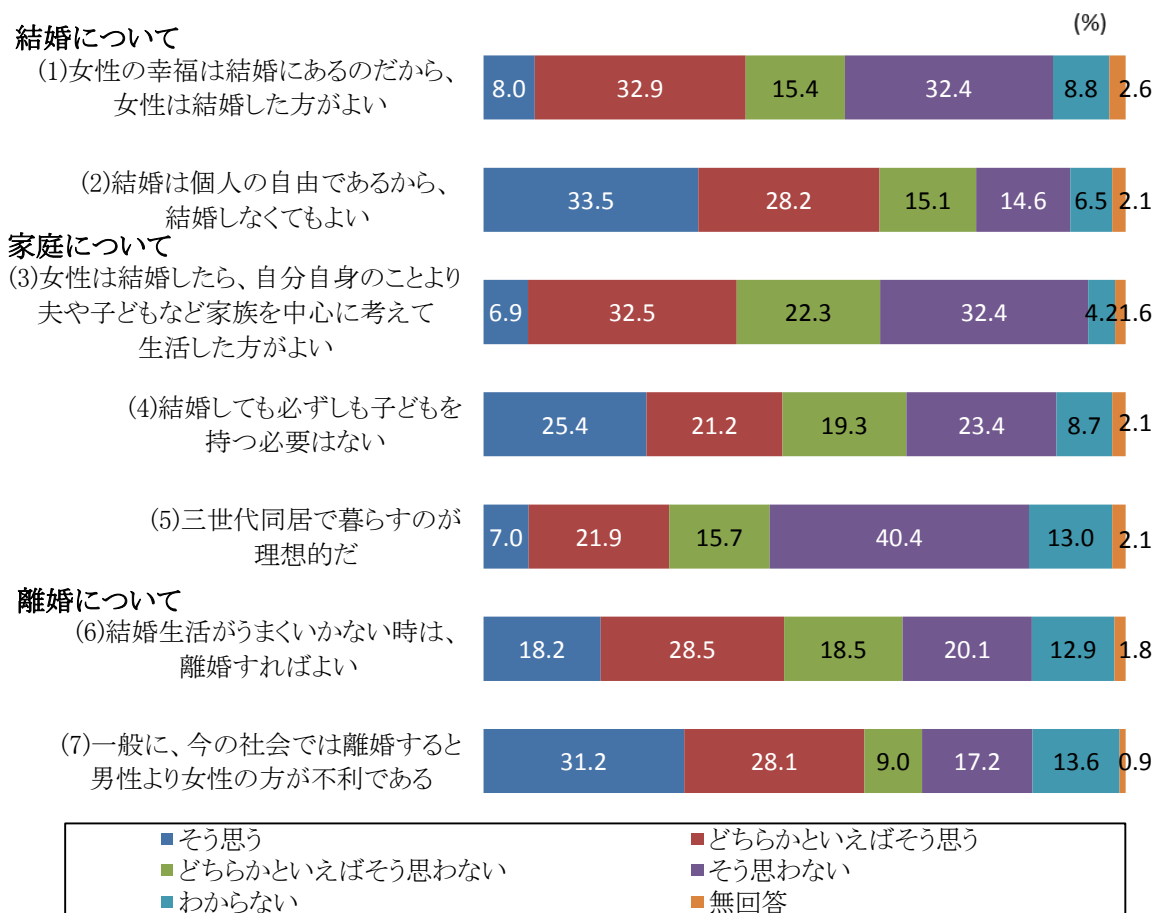
#### (1) 結婚・家庭・離婚についての考え

【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

結婚や家庭、離婚については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」が61.7%と最も高く、次いで、「一般に、今の社会では離婚すると男性よりも女性の方が不利である」の59.3%、「結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい」の46.7%などの順になっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が56.1%で最も高く、次いで、「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」の54.7%などの順になっている。



## (2) 夫婦の役割分担

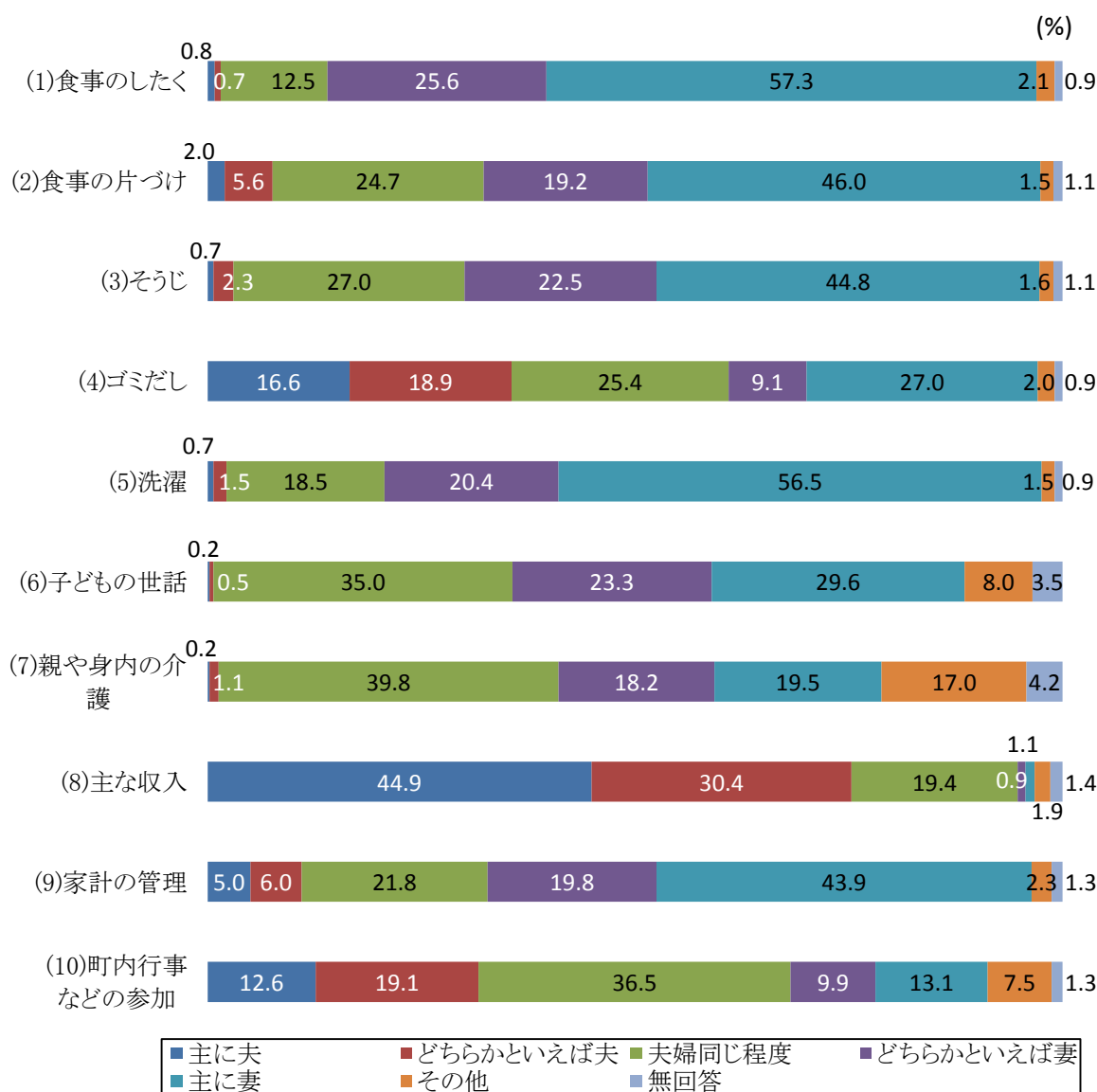
【問5】 あなたは、次の(1)～(10)について、夫婦間でどのように分担していますか。配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

【全体】

夫婦の役割分担については、「主に夫」と「どちらかと言えば夫」を合わせた『夫(計)』は、「主な収入」が75.3%と最も高く、次いで、「ゴミ出し」の35.5%、「町内行事などの参加」の31.7%などの順になっている。また、「夫婦同じ程度」は「親や身内の介護」が39.8%と最も高く、次いで、「町内行事などの参加」が36.5%、「子どもの世話」が35.0%などの順になっている。

一方、「どちらかといえば妻」と「主に妻」を合わせた『妻(計)』は、「食事のしたく」が82.9%で最も高く、次いで、「洗濯」が76.9%、「そうじ」が67.3%などの順になっている。

『夫(計)』と『妻(計)』を比較すると、「主な収入」と「町内行事などの参加」以外は妻の役割との割合が高くなっていて、多くの役割分担が女性に偏っている。

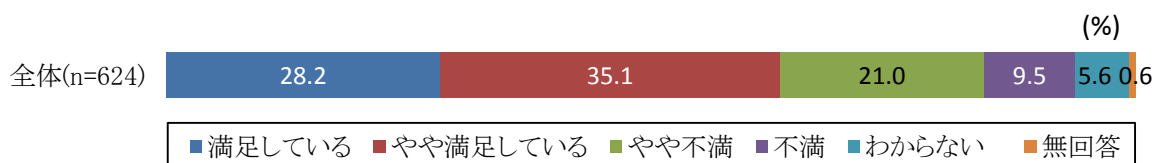


### (3) 夫婦の役割分担の満足度

【問6】 あなたは、夫婦間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

【全体】

夫婦の役割分担の現状については、「やや満足」が35.1%と最も高く、次いで、「満足」の28.2%、「やや不満」の21.0%、「不満」の9.5%の順になっている。

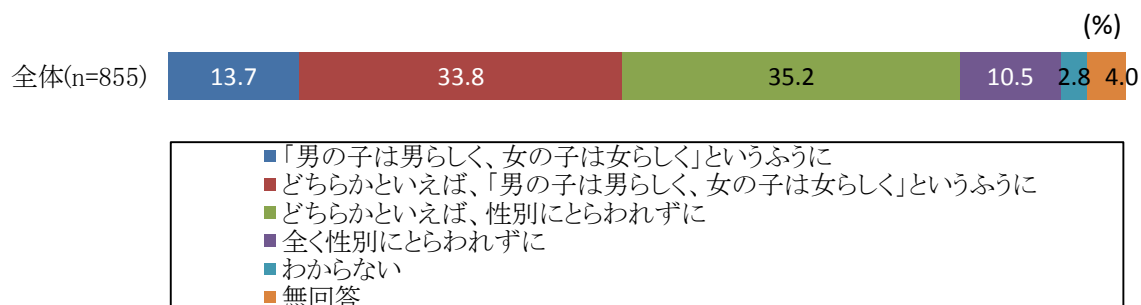


### (4) 自分の子どもの育て方

【問7】 あなたは、自分の子どもをどう育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。

【全体】

自分の子どもの育て方については、「どちらかといえば性別にとらわれずに」が35.2%と最も高く、次いで、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふう」の33.8%、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふう」の13.7%、「全く性別にとらわれずに」の10.5%の順になっている。



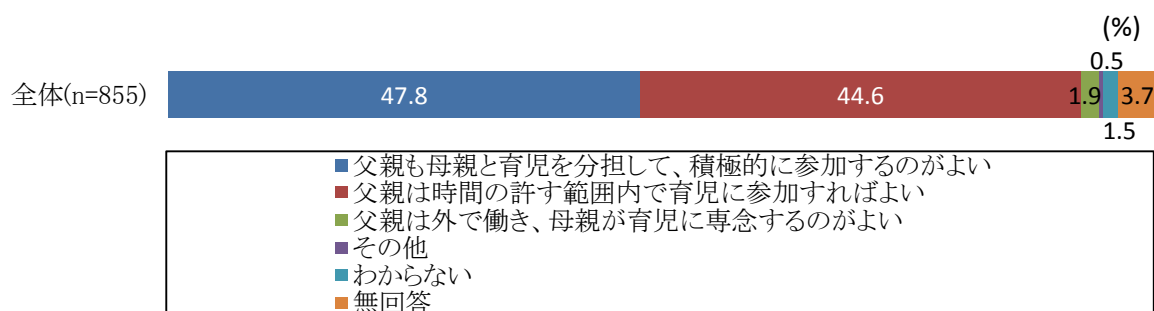


(5) 父親の育児参加に対する考え

【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。

【全体】

父親の育児参加については、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」が47.8%と最も高く、次いで、「父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい」の44.6%、「父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい」の1.9%などの順になっている。

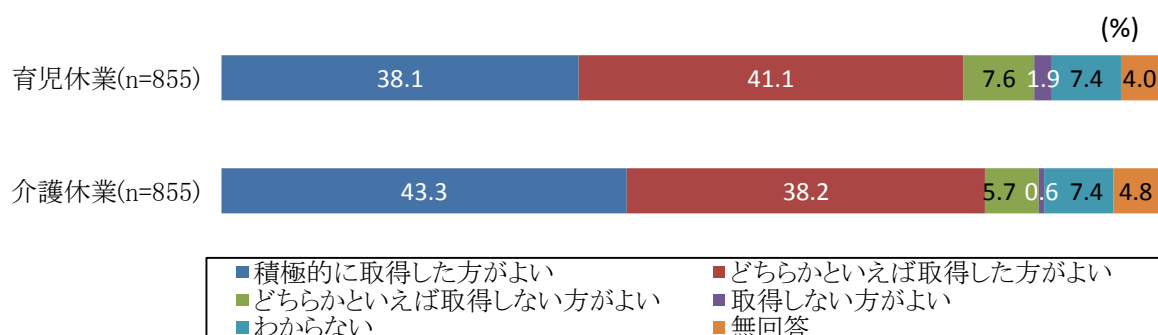


(6) 男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づく育児休業や介護休業の制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。

【全体】

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい (計)』は育児休業で79.2%、介護休業で81.5%となっている。一方、「どちらかといえば取得しない方がよい」と「取得しない方がよい」を合わせた『取得しない方がよい (計)』は育児休業で9.5%、介護休業で6.3%となっている。



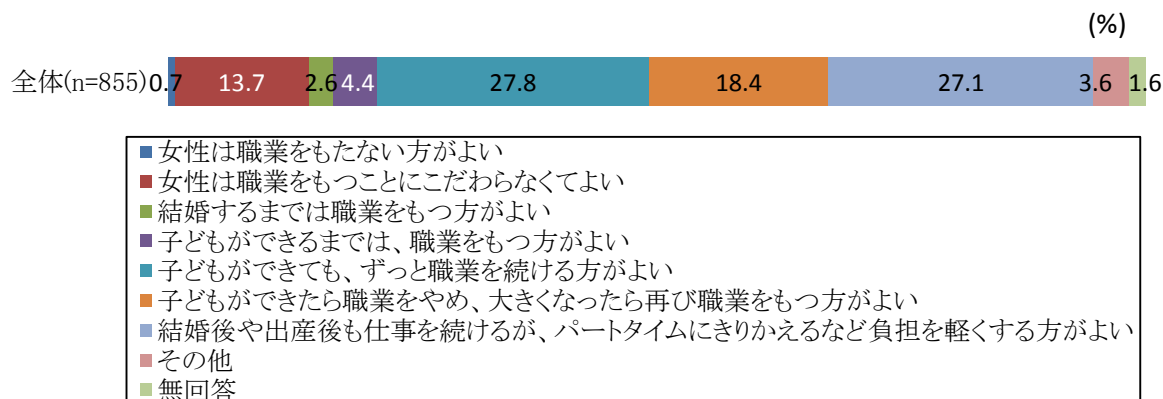
#### 4. 女性と仕事について

##### (1) 女性が仕事を持つことについての考え

【問10】 女性が仕事を持つことについてどうお考えですか。

###### 【全体】

女性が仕事を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が27.8%で最も高く、次いで、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が27.1%、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の18.4%などの順となっている。

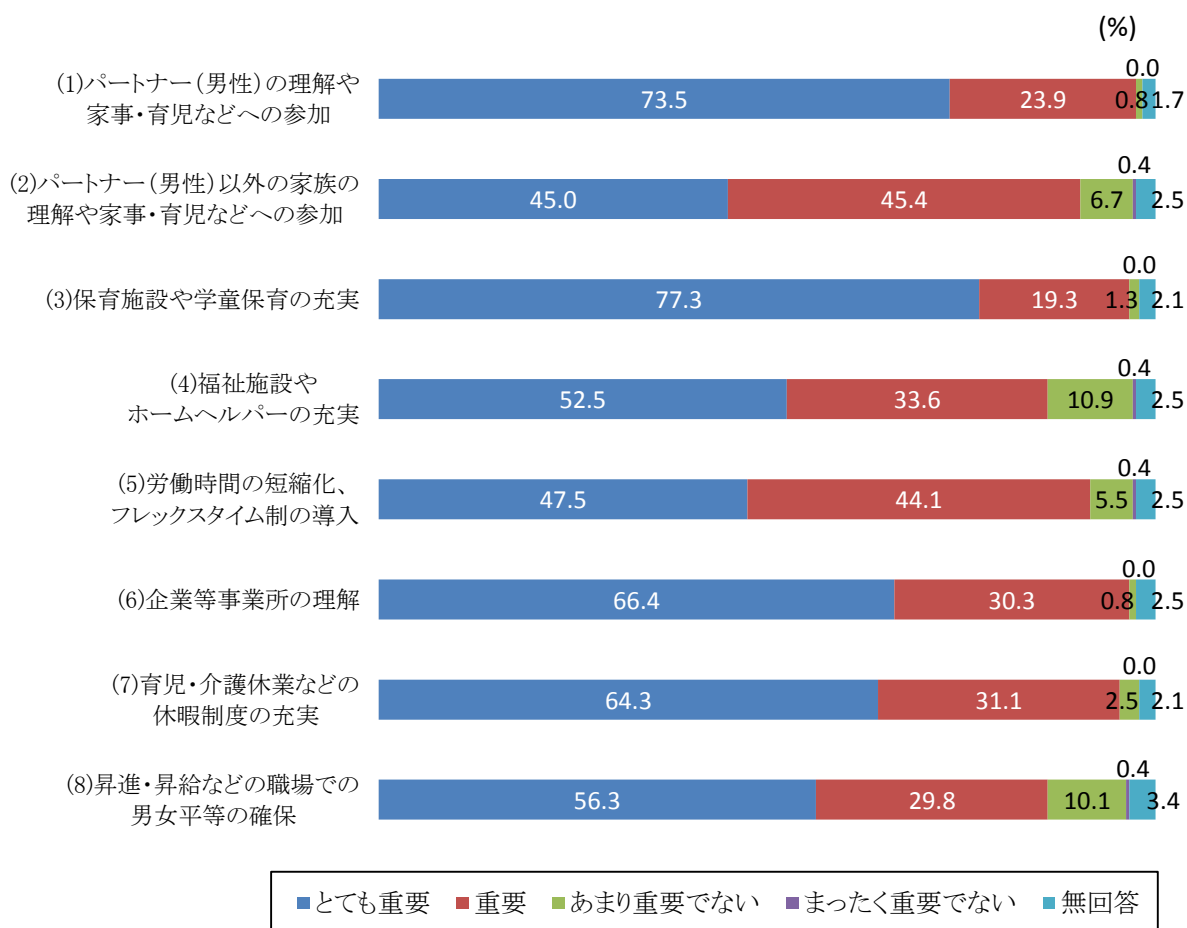


(1 - 1) 女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

【問10 - 1】 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

【全体】

女性が仕事を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した238人に働き続けるために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は『保育施設や学童保育の充実』で77.3%と最も高く、次いで、『パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加』で73.5%、『企業等事業所の理解』の66.4%などの順となっている。また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要（計）』は『パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加』で97.4%と最も高く、次いで、『企業等事業所の理解』で96.7%、『保育施設や学童保育の充実』の96.6%などの順となっている。

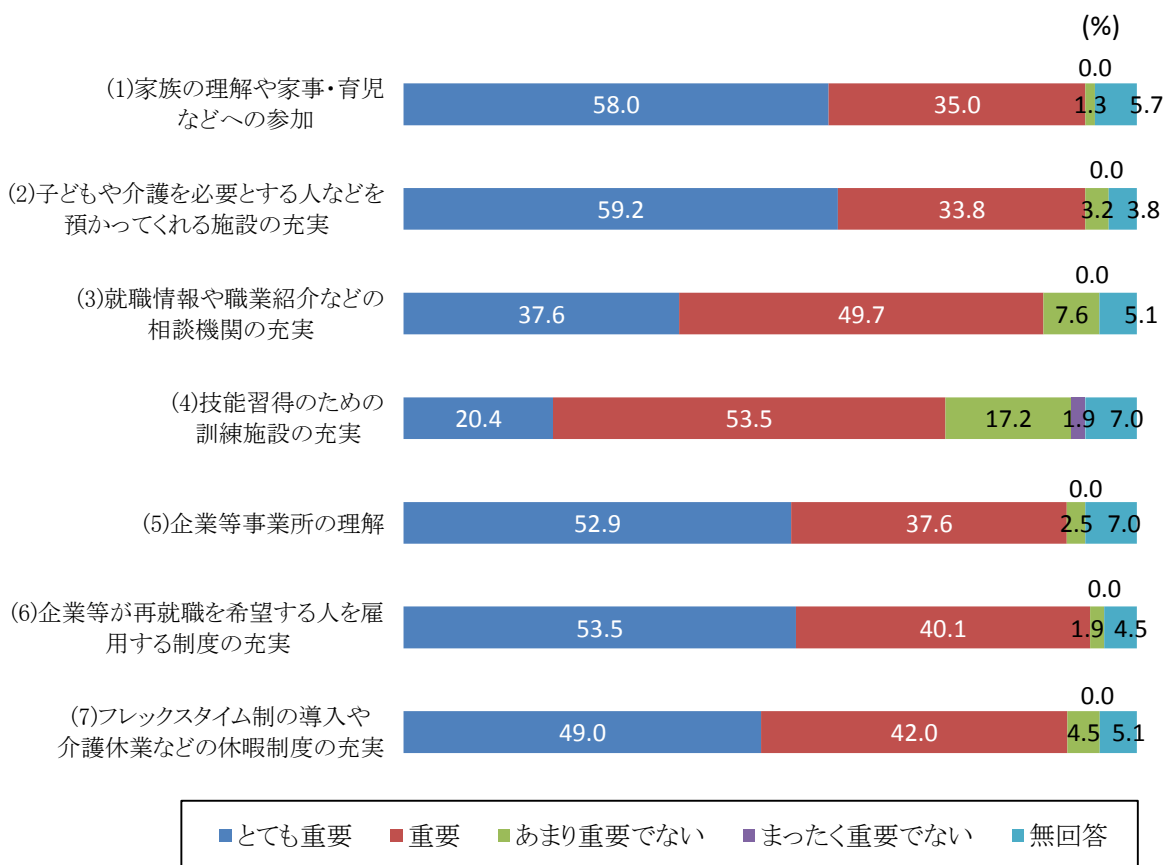


(1 - 2) 結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと

【問10 - 2】 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。

【全体】

女性が仕事を持つことについて、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した157人に再就職するために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は『子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実』で59.2%と最も高く、次いで、『家族の理解や家事・育児などへの参加』で58.0%、『企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実』の53.5%などの順となっている。また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要(計)』は『企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実』で93.6%と最も高く、次いで、『家族の理解や家事・育児などへの参加』と『子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実』の93.0%などの順となっている。一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせた『重要でない(計)』は「技能習得のための訓練施設の充実」で19.1%と最も高くなっている。



## 5. 男女の地域・社会参画について

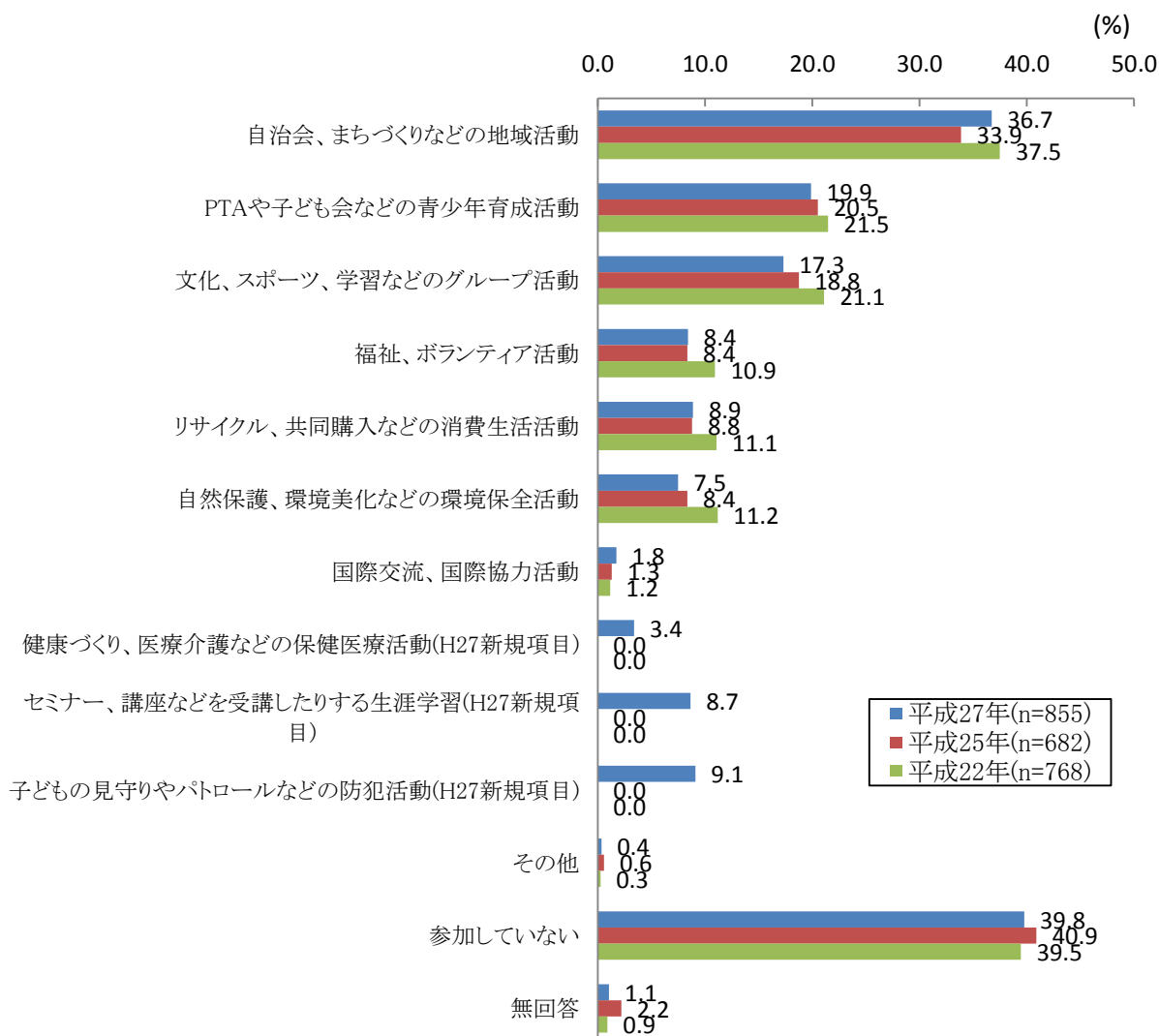
### (1) 地域・社会活動への参加状況

【問11】 次にあげるような活動に参加していますか。

【全体】

地域活動の参加状況については、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が36.7%で最も高く、次いで、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」が19.9%、「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」の17.3%などの順となっている。一方、「参加していない」は39.8%となっている。

経年比較をみると、大きな変化はないものの「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」や「PTAや子ども会などの青少年育成活動」、「自然保護、環境美化などの環境保全活動」が減少傾向にある。



※ 「健康づくり、医療介護などの保健医療活動」「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習」「子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動」は平成27年度調査から追加された選択肢です。

### 【第2次行動計画の評価目標】

項目	基準値 H22	H25	(現状) H27	目標年度 H28
地域・社会活動に参加していない人の割合 (基本目標Ⅲ)	39.5%	40.9%	39.8%	35.0%

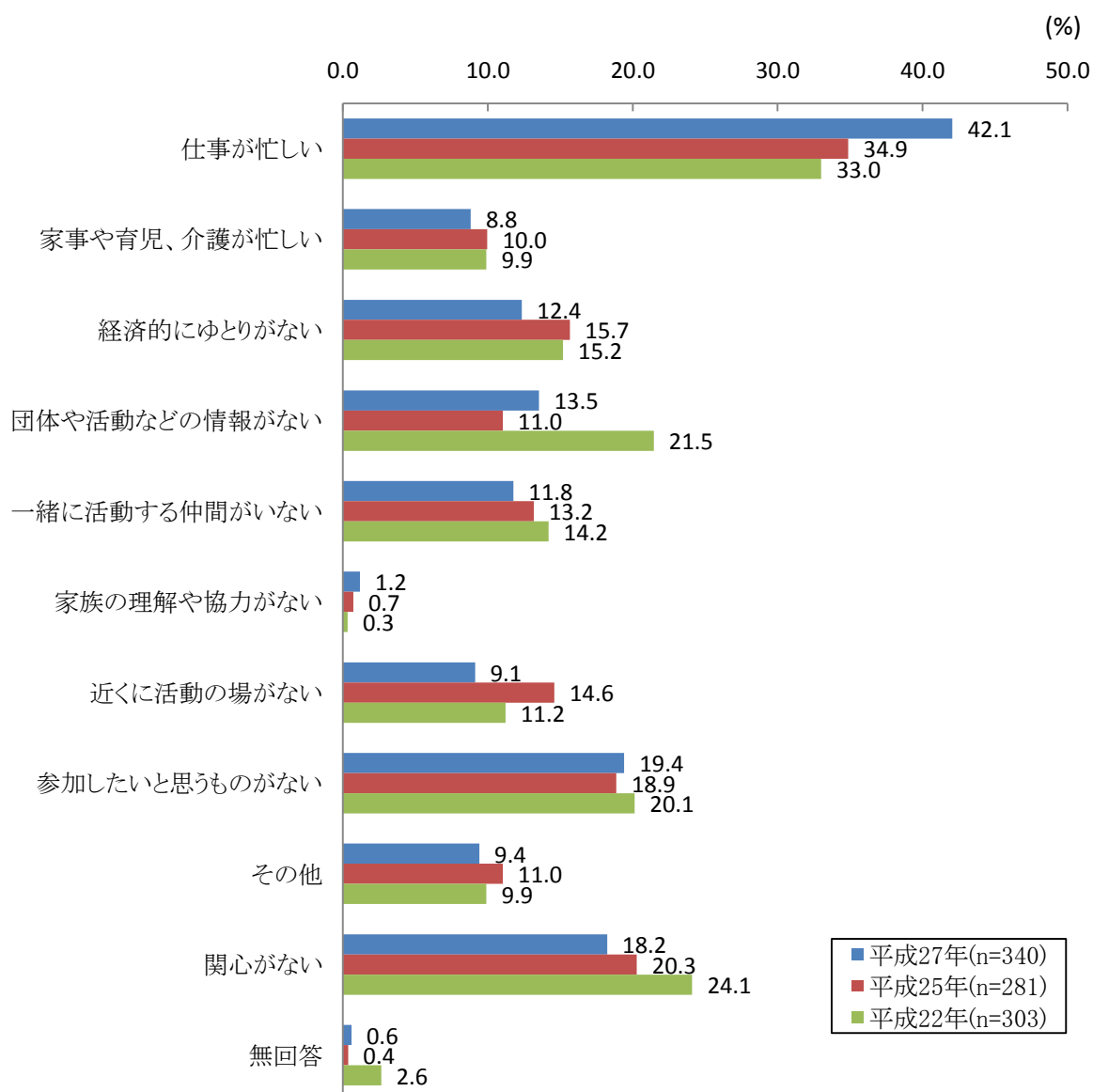
(1 - 1) 地域・社会活動に参加していない理由

【問12】 あなたが地域・社会活動に参加していないのはなぜですか。

【全体】

地域活動に「参加していない」と回答した340人に、参加していない理由を聞いたところ、「仕事が忙しい」が42.1%で最も高く、次いで、「参加したいと思うものがない」で19.4%、「関心がない」の18.2%、「団体や活動などの情報がない」の13.5%などの順となっている。

経年比較をみると、「仕事が忙しい」は平成22年調査以降増加傾向にあり、前回調査より7.2ポイント増加している。一方、「関心がない」、「一緒に活動する仲間がいない」、「経済的にゆとりがない」は減少傾向にあり、「近くに活動の場がない」については、前回調査より5.5ポイント減少している。



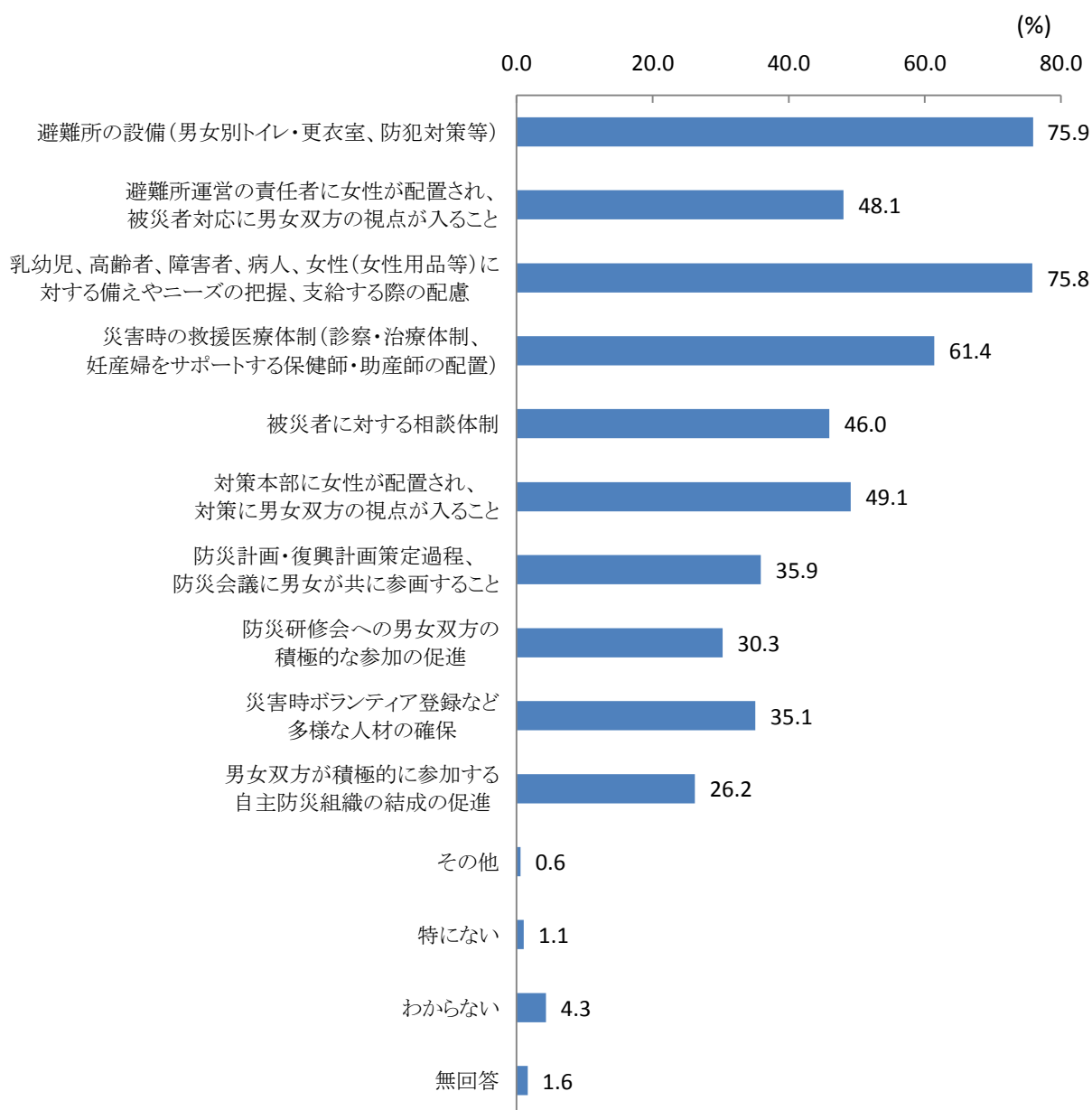
## 6. 男女共同参画の視点からの防災について

### (1) 防災等の分野における性別に配慮した対応

【問13】 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。

#### 【全体】

防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要かについては、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）」が75.9%で最も高く、次いで、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が75.8%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の61.4%などの順となっている。



7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度

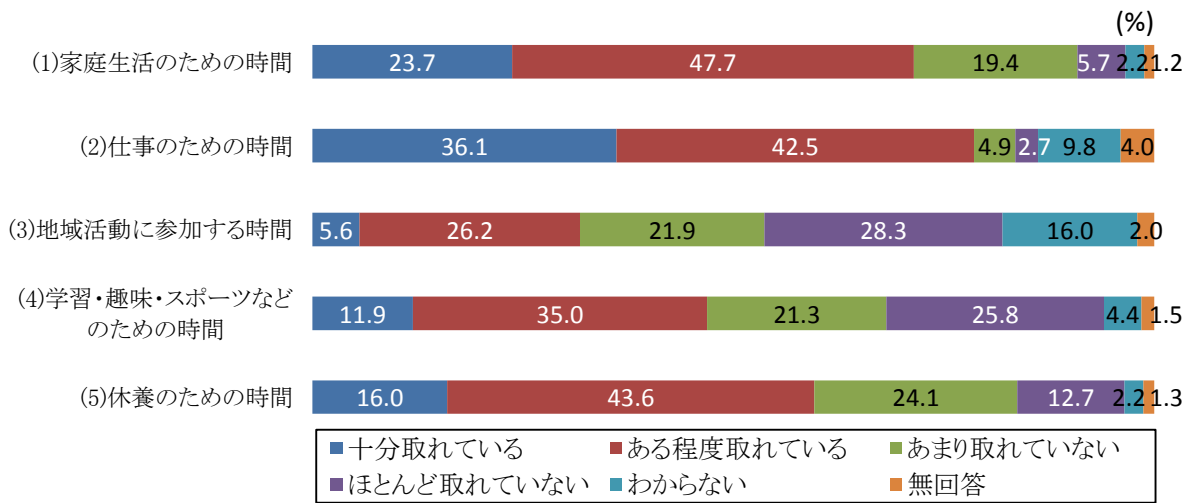
【問14-1】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、満足する時間が取れていますか。

【全体】

日常生活の満足度について、「十分取れている」と「ある程度取れている」を合わせた『取れている(計)』は、「仕事のための時間」が78.6%と最も高く、次いで、「家庭生活のための時間」の71.4%、「休養のための時間」の59.6%などの順になっている。

一方、「あまり取れていない」と「ほとんど取れていない」を合わせた『取れていない(計)』は、

「地域活動に参加する時間」が50.2%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の47.1%などの順になっている。



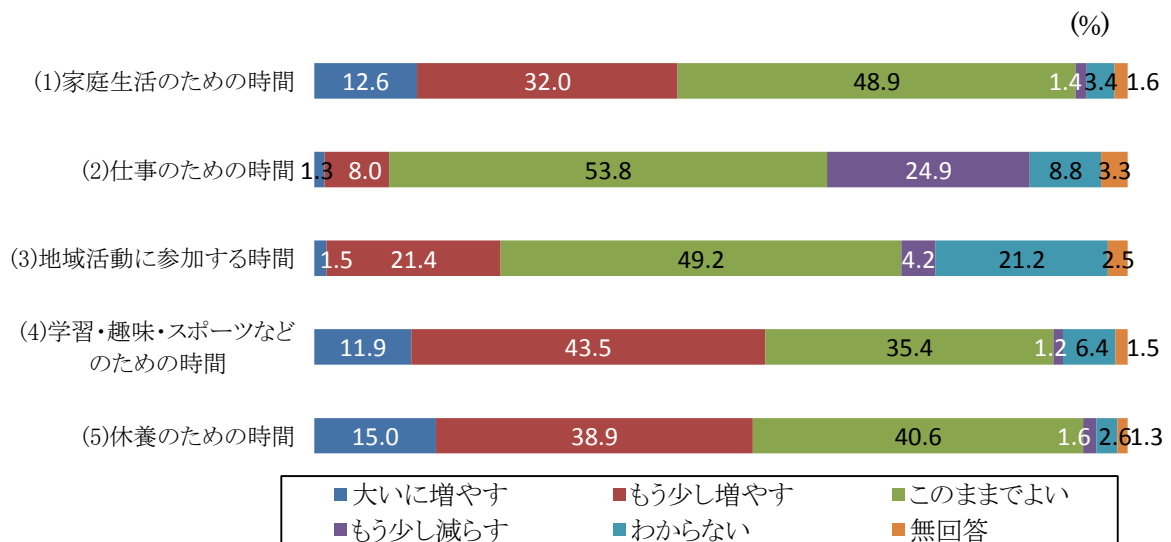
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想

【問14-2】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

【全体】

日常生活における理想の時間について、「大いに増やす」と「もう少し増やす」を合わせた『増やす(計)』は、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」が55.4%と最も高く、次いで、「休養のための時間」の53.9%、「家庭生活のための時間」の44.6%などの順になっている。

一方、「仕事のための時間」は「もう少し減らす」が24.9%で、全項目の中で最も高い。



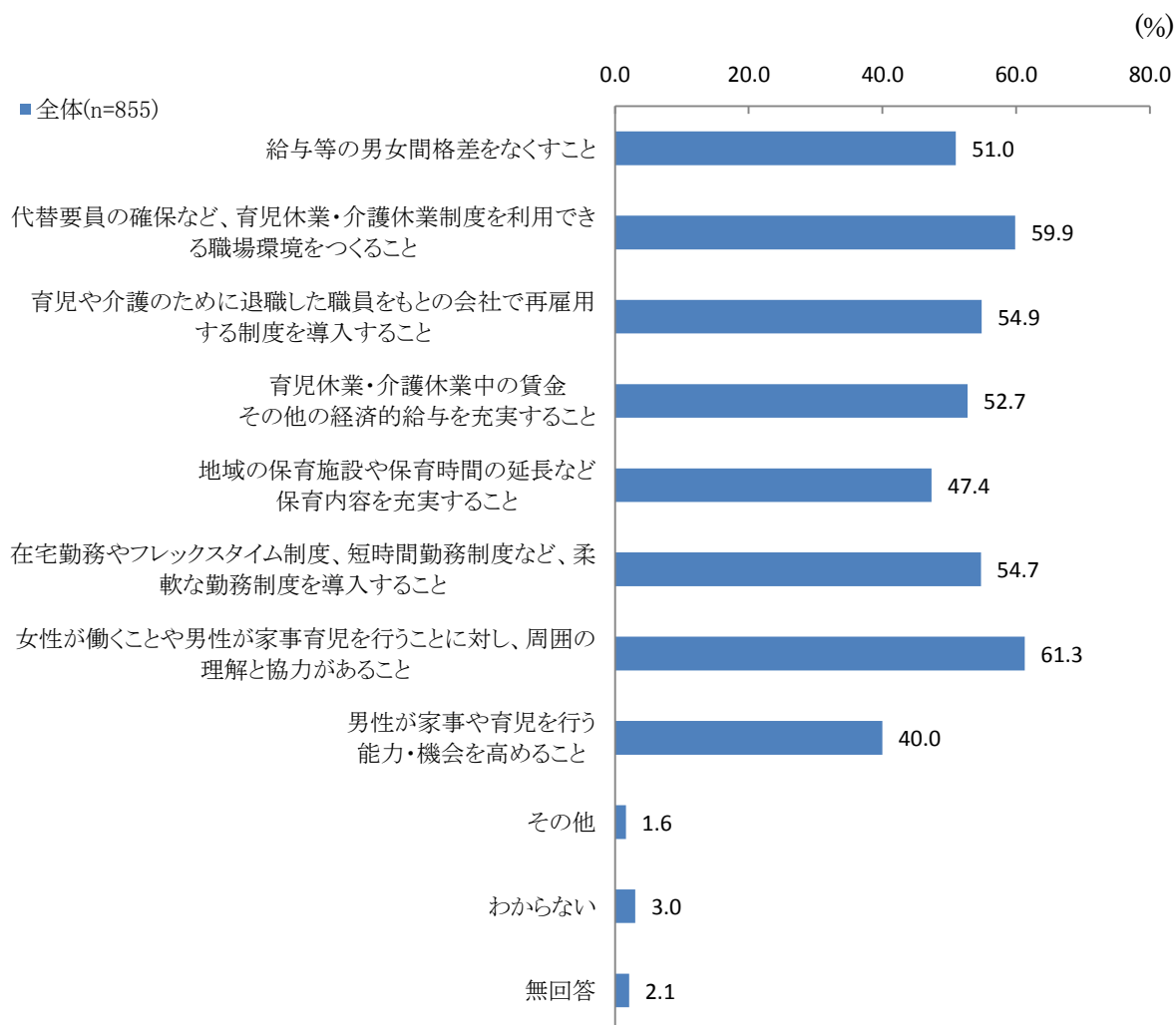


### (3) 男女が仕事、家庭、地域生活を両立するために必要なこと

【問15】 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。

【全体】

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件について、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」が61.3%で最も高く、次いで、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が59.9%、「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」54.9%などの順となっている。



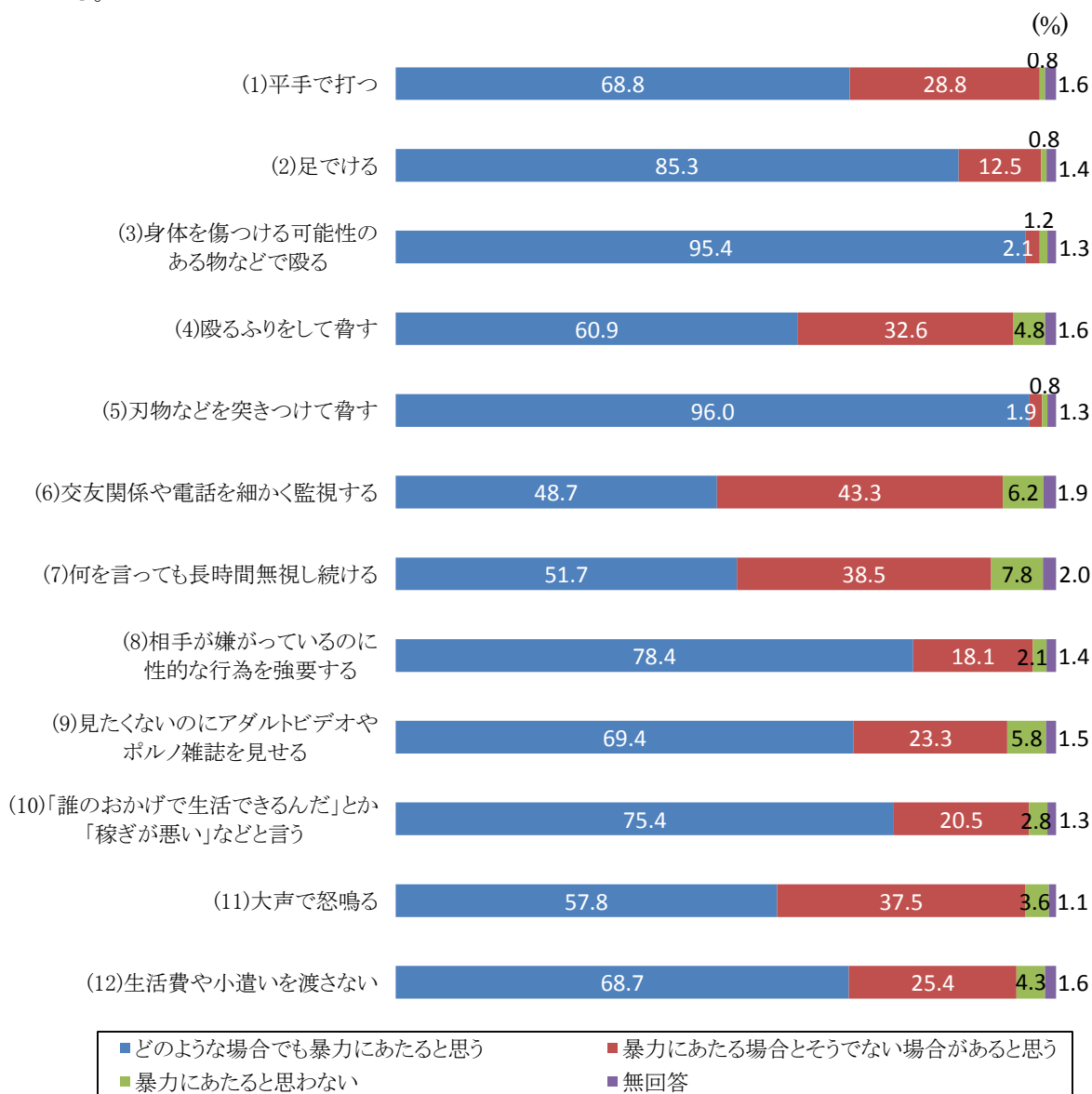
## 8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて

### (1) 配偶者・パートナー間の暴力

【問16】 次の(1)～(12)のようなことが配偶者・パートナー・恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。

【全体】

配偶者・パートナー・恋人間での暴力に対する考えについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は“刃物などを突きつけて脅す”で96.0%と最も高く、次いで、“身体を傷つける可能性のある物などで殴る”が95.4%、“足でける”が85.3%などの順になっている。また、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は、“交友関係や電話を細かく監視する”で43.3%と最も高く、次いで、“何を言っても長時間無視し続ける”が38.5%、“大声で怒鳴る”が37.5%などの順になっている。



### 【第2次行動計画の評価目標】

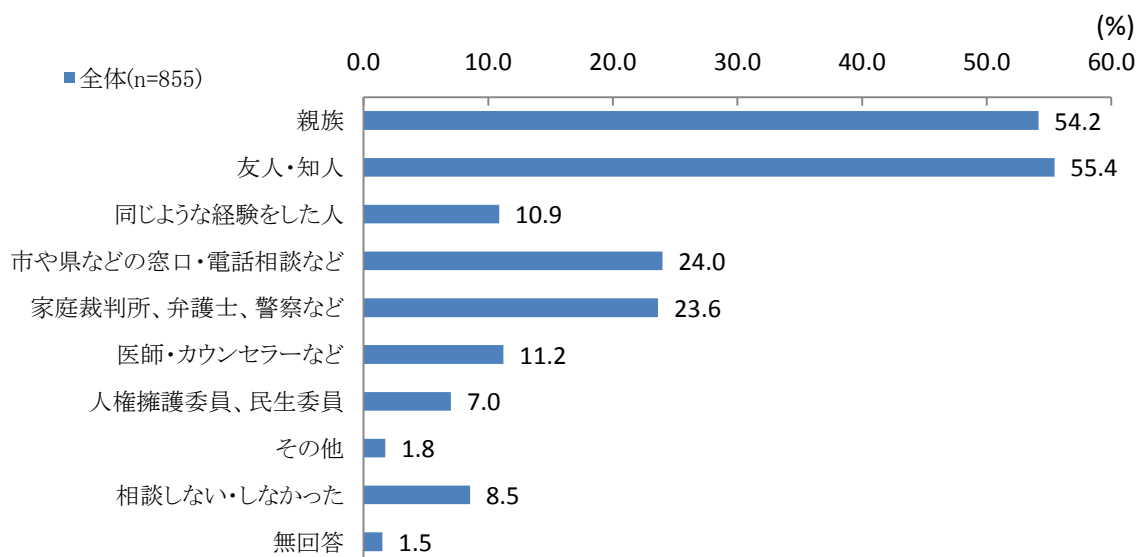
項目	基準値 H22	H25	(現状) H27	目標年度 H28
夫婦間における「平手で打つ」を暴力として認識する人の割合（基本目標Ⅱ）	61.7%	68.8%	68.8%	100.0%

## (2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先

【問17-1】 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

【全体】

DVの相談先について、「友人・知人」が55.4%で最も高く、次いで、「親族」が54.2%となっている。

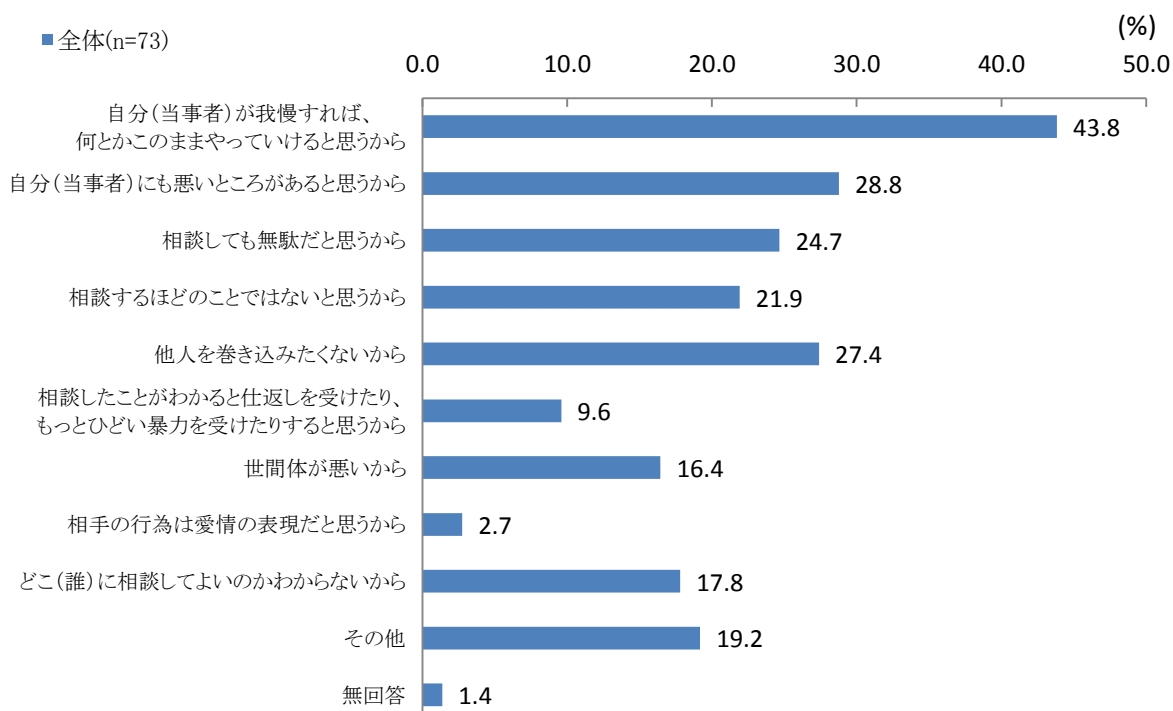


### (2-1) 暴力について相談しなかった理由

【問17-2】 <問17-1で、「9. 相談しない・しなかった」と回答した方に>  
相談しない・しなかったのはなぜですか。

【全体】

暴力を相談しない理由について、「自分が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」が43.8%で最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思うから」が28.8%、「他人を巻き込みたくないから」が27.4%などの順になっている。



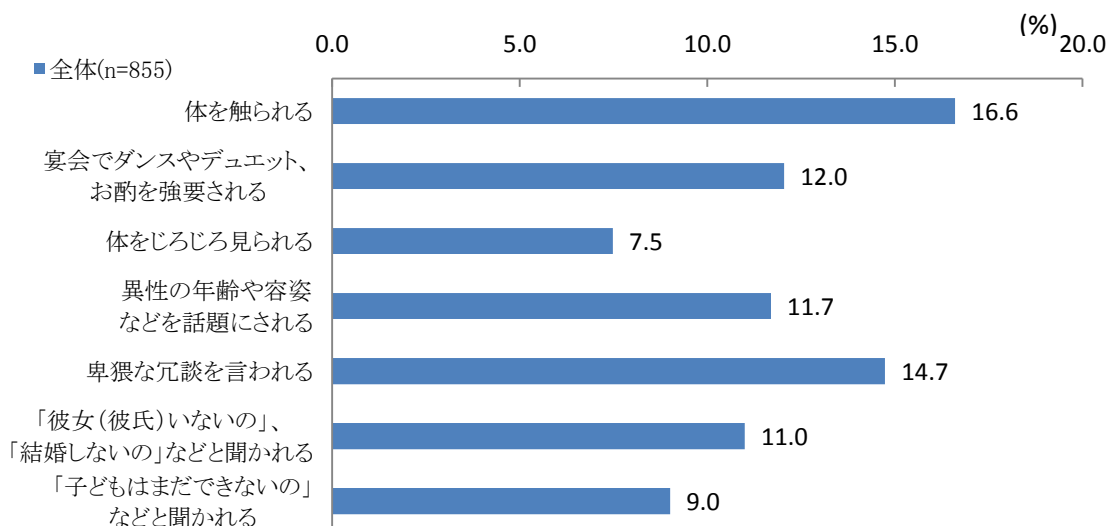
### (3) セクシャル・ハラスメントと感ずること

【問18】 次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。

#### ① 職場

##### 【全体】

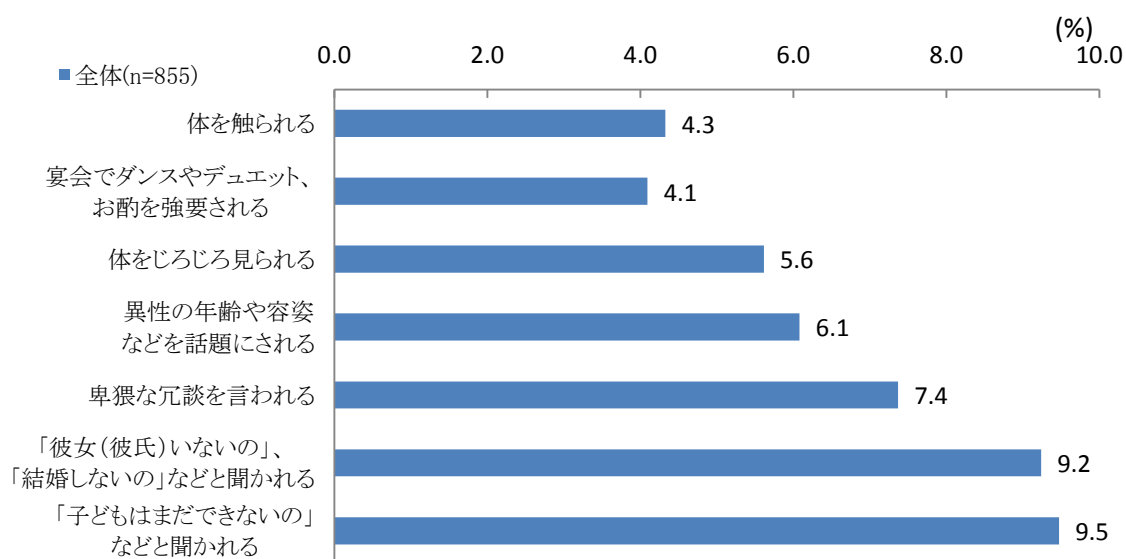
職場においてセクハラだと感ずることについて、「体を触られる」は16.6%と最も高く、次いで、「卑猥な冗談を言われる」は14.7%、「宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される」は12.0%などの順になっている。



#### ② 地域

##### 【全体】

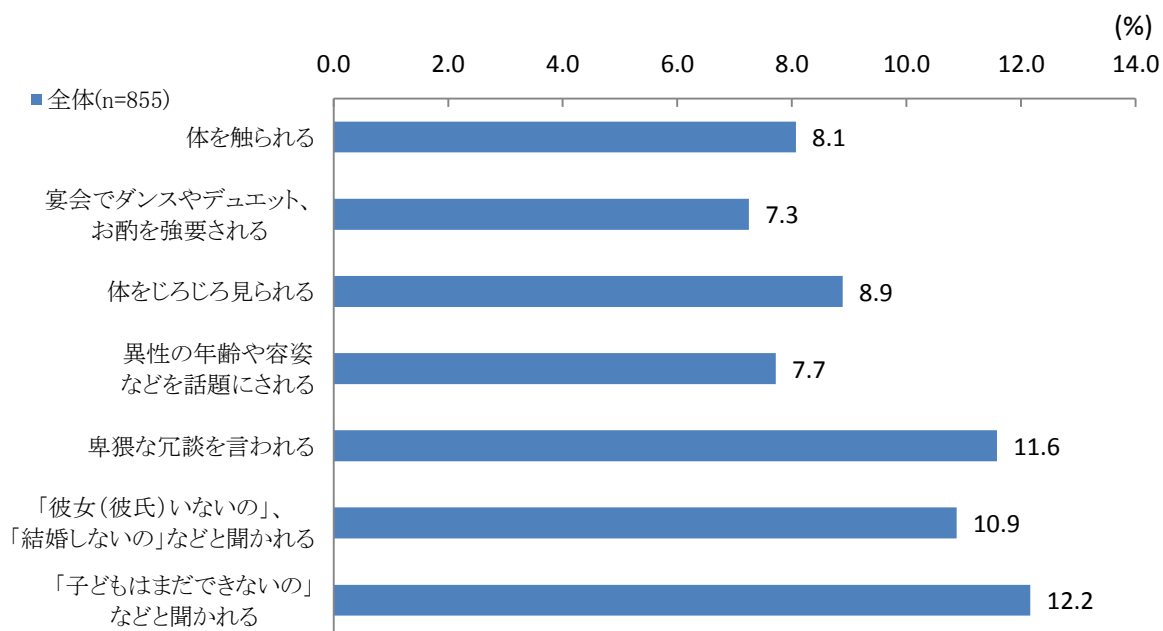
地域においてセクハラだと感ずることについて、「子どもはまだできないの」などと聞かれる」は9.5%と最も高く、次いで、「彼女(彼氏)いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる」は9.2%、「卑猥な冗談を言われる」は7.4%などの順になっている。



### ③ その他

#### 【全体】

その他においてセクハラだと感じることについて、「子どもはまだできないの」などと聞かれる」は12.2%と最も高く、次いで、「卑猥な冗談を言われる」は11.6%、「彼女（彼氏）いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる」は10.9%などの順になっている。



## 9. 男女共同参画を推進するための取組について

### (1) 市が力を入れるべき取組

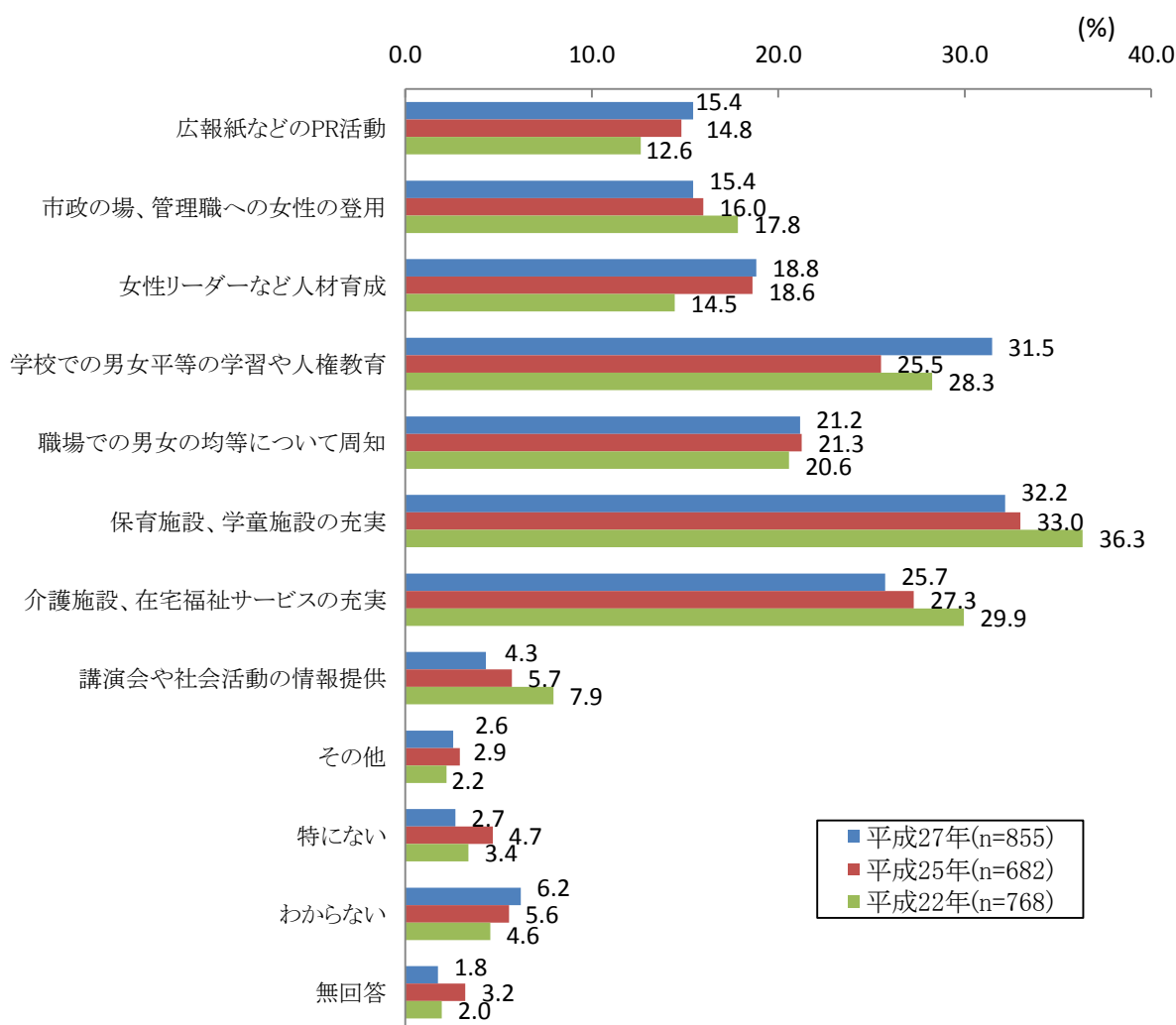
【問 19】 男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

#### 【全体】

市が今後力を入れていくべきことについて、「保育施設、学童施設の充実」は32.2%と最も高く、次いで、「学校での男女平等の学習や人権教育」は31.5%、「介護施設、在宅福祉サービスの充実」は25.7%などの順になっている。

#### 【経年比較】

経年比較をみると、「学校での男女平等の学習や人権教育」は前回調査から6ポイント増加している。一方、「保育施設、学童施設の充実」は前回調査から0.8ポイント、「介護施設、在宅福祉サービスの充実」は1.6ポイント、それぞれ減少している。



## (2) 企業や職場での必要な取組

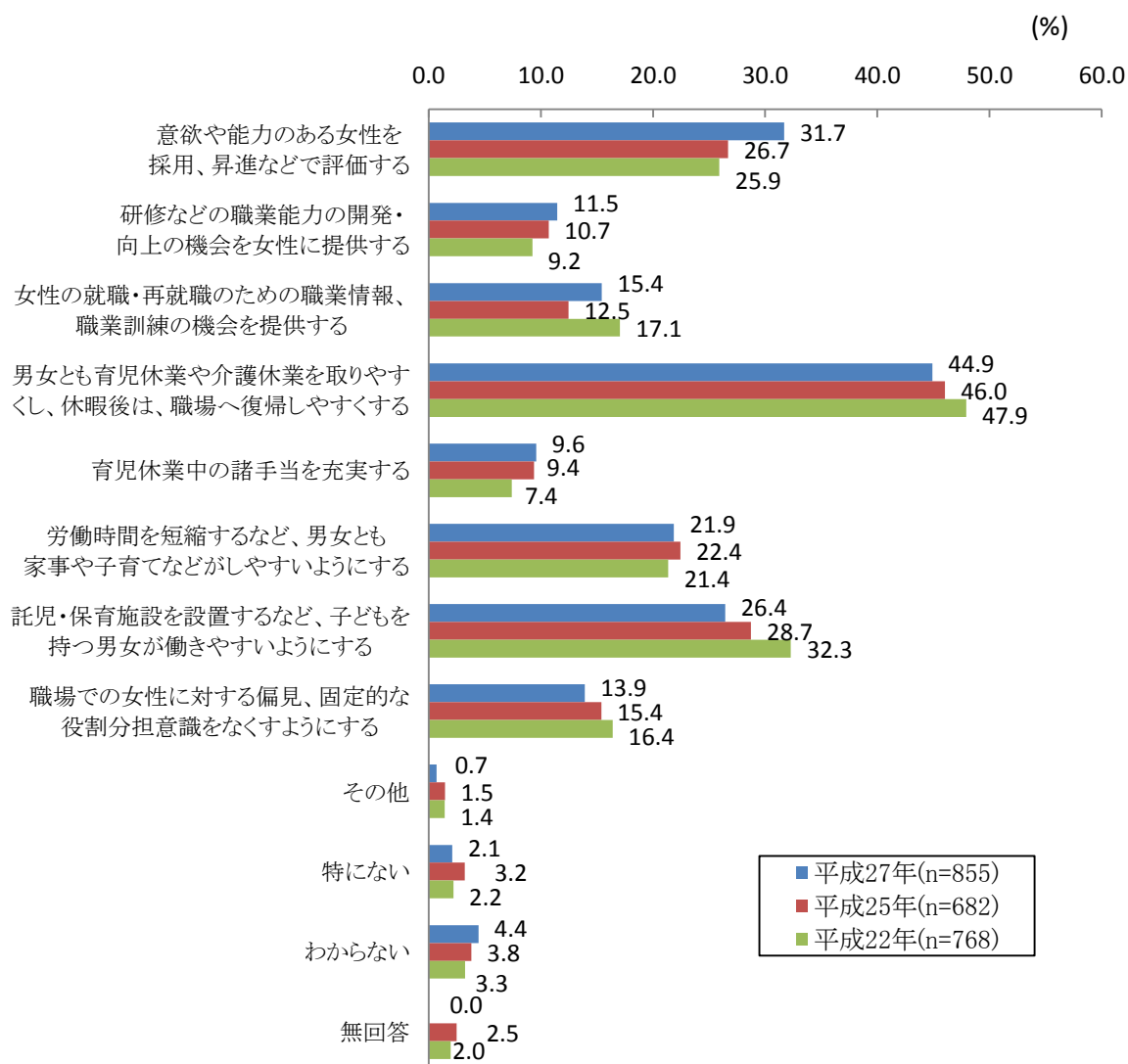
【問 20】 男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

男女共同参画社会を実現するために企業などの職場が力を入れるべきことについて、「男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休暇後は、職場へ復帰しやすくする」は44.9%と最も高く、次いで、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は31.7%、「託児・保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする」は26.4%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較すると、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は前回調査から5ポイント、「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」は前回調査から2.9ポイント、それぞれ増加している。



### (3) 私たち自身が必要な取組

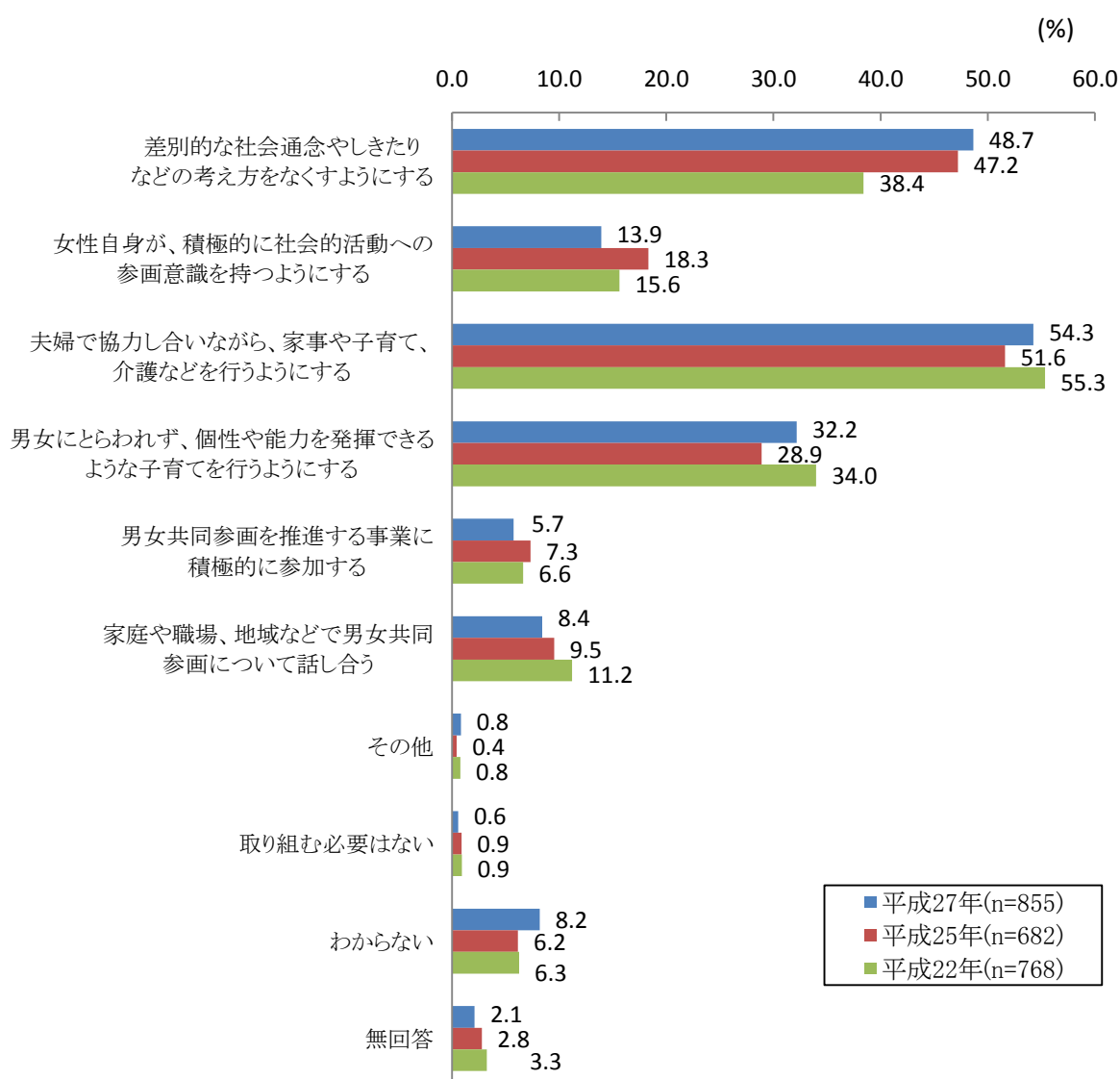
【問 21】 男女共同参画参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

男女共同参画社会を実現するために私たち自身が必要な取組みについて、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は 54.3%で最も高く、次いで、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」は 48.7%、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は 32.2%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較すると、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は前回調査から 3.3 ポイント、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は 2.7 ポイント、それぞれ増加している。





#### (4) 市の施策の認知度

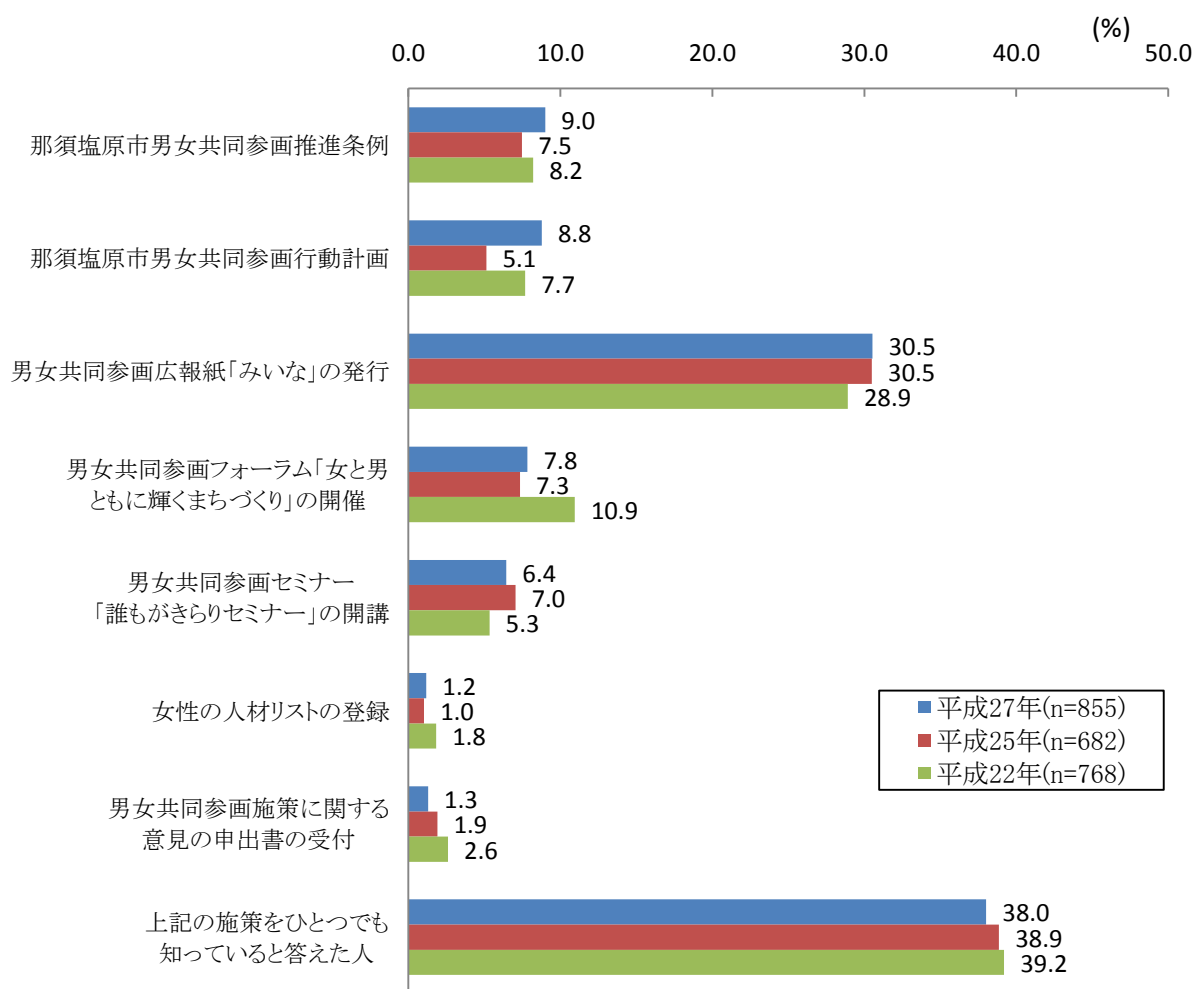
【問 22】 市で取り組んでいる次の男女共同参画施策を知っていますか。

【全体】

市で取り組んでいる男女共同参画施策について、「男女共同参画広報紙“みいな”の発行」は30.5%で最も高く、その他の項目は1割を満たしていない。

【経年比較】

経年比較すると、「那須塩原市男女共同参画行動計画」は前回調査から3.7ポイント、「那須塩原市男女共同参画推進条例」は1.5ポイント、それぞれ高くなっている。

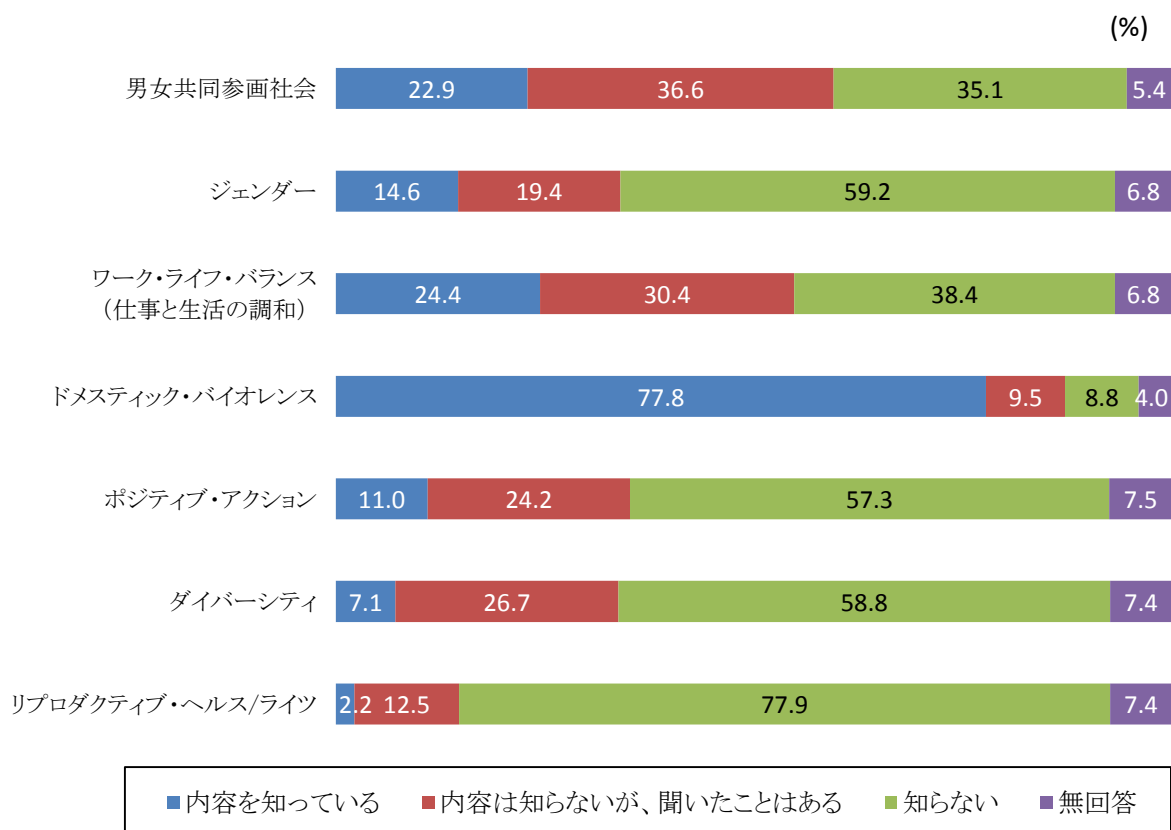


(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度

【問 23】 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。

【全体】

男女共同参画に関する言葉の認知度について、「内容を知っている」は「ドメスティック・バイオレンス」が 77.8%で最も高く、次いで、「ワーク・ライフ・バランス」が 24.4%などの順になっている。一方、「知らない」は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が 77.9%で最も高く、次いで、「ジェンダー」が 59.2%などの順になっている。



男女共同参画社会に関する市民意識調査

報告書（概要版）

平成 28 年 2 月

編集・発行 那須塩原市 企画部 市民協働推進課

〒325 - 8501 栃木県那須塩原市共墾社108番地2

TEL 0287 - 62 - 7019

FAX 0287 - 62 - 7220